

首都直下地震と都民の意識—2022年東京都民調査から—

An Earthquake in the Tokyo Metropolitan Area and Attitudes toward Disaster Prevention:

From the 2022 Tokyo Metropolitan Survey of Citizens

安本 真也 Shinya YASUMOTO

葛西 優香 Yuka KASAI

富澤 周 Shu TOMIZAWA

内田 充紀 Mitsuki UCHIDA

関谷 直也 Naoya SEKIYA

目 次

1. はじめに
 - 1.1 調査目的
 - 1.2 調査対象
 - 1.3 調査概要
 - 1.4 分析手続き
2. デモグラフィック
3. 地震に関する知識と心理
 - 3.1 首都直下地震に関する情報接触
 - 3.2 地域危険度の認知
 - 3.3 『東京防災』の認知
 - 3.4 被害想定認知と心理
4. 都民の考える被害想定
 - 4.1 首都直下地震への意識
 - 4.2 自宅ならびに周囲の被害
 - 4.3 発災時の行動
 - 4.4 発災後の避難行動
 - 4.5 長期避難・広域避難
 - 4.6 勤務先の被害
5. 地震対策の現状
 - 5.1 地震対策の有無
 - 5.2 地震対策への評価
 - 5.3 地震対策のきっかけ

引用・参考文献

附属資料（アンケート調査の単純集計）

キーワード：首都直下地震、アンケート調査、被害想定、リスク認知

執筆分担：

安本 真也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	1～5 章
葛西 優香	東京大学大学院学際情報学府 修士課程	
富澤 周	東京大学大学院学際情報学府 修士課程	
内田 充紀	東京大学大学院学際情報学府 修士課程	
関谷 直也	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター	

1. はじめに

1.1 調査目的

日本は地震が非常に多い国である。1984年から2013年までの間、世界中のマグニチュード6.0以上の地震のうち、日本で18.5%が発生している（内閣府2014）。日本という国の国土面積をふまえれば、これがいかに多いか明らかである。

こうした地震がひとたび発生すれば、それが人が集中しているような都市部であればなおさら大きな被害となる。特に、人が多い状況では不確定要素が多く、どのような被害が生じるか、必要となる支援が事前にはわかりにくい。大多数の人は、何度も大きな被害をもたらすような地震を経験しないであろう。

大きな地震に遭遇した際には、これまでにない対応を迫られる。実際にどのような行動をとるか、ある程度考えておく必要がある。

その反応を考えるうえで、事前の、大きな地震被害に対する認知は重要である。2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震のように、地震発生後の被災地の様子はテレビなどを通して映像で知ることが可能となったこともあり、大きな地震被害に対する認知体系が形成されていると考えられる。その認知体系を明らかにすることは、実際に大きな地震被害が発生した場合の社会的反応を予測することにつながると考えられる。

多くの都道府県や国（内閣府）は、地震が発生した場合の被害想定を公表しており、工学的に人的・物的被害の数や避難者の数などが事前に推計されている。だが、そこには住民がどのように避難するか、どう対応すると想定しているか、心理面はあまり考慮されていない。そこで、本研究では、現在の住民が抱く地震の被害に関する認知体系を明らかにする。

1.2 調査対象

上記の目的をふまえ、本研究では、特に東京都に関する地震の被害に着目する。

地震による被害は日本のどこで発生してもおかしくない。なかでも、日本の首都たる東京都は一度大きな地震が発生すると、日本の政治・経済の中心であることから、当該地域の問題のみならず、日本全国、ひいては世界の問題となる可能性があるからである。また、東京都においては、2011年の東日本大震災で帰宅困難者の問題が発生するなど、一部では課題が浮き彫りになったものの、地震による直接的な大規模被害は1923年の関東大震災以降、経験していない。だが、東京都を含めた南関東地域において、直下型のマグニチュード7の地震が今後30年以内に70%の確率で発生するとされるなど（地震調査研究推進本部、2015）、大きな地震が発生する可能性があると考えられており、特に東京都民の地震への「準備」は急務である。そこで、東京都を対象とし、地震の被害に関する認知体系を明らかにする。

1.3 調査概要

前述の目的、対象をふまえ、実施した調査の概要について述べる。

調査の概要は表 1.1 の通りである。NTT コムリサーチに登録している、東京都在住のモニターパネルを対象として調査を行った。ここでは、東京都下の基礎自治体ごとに性年代均等割付を行った。東京都下には特別区である 23 区ならびに 26 市、5 町、8 村があるが、このうち、島しょ部の 2 町、7 村を除いた区市町村の住民を対象とした。ただし、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町の西多摩郡に関しては、サンプルサイズが十分に集まらない可能性があったため、これらの 4 つの市町はまとめて「西多摩郡」とした。つまり、23 区ならびに 26 の市と西多摩郡において、性別ならびに年代（20 代から 60 代まで）の均等割付を行った。各セルで 10 サンプルを回収することを目標とした。

表 1.1 調査概要

調査対象	東京都市区ならびに西多摩郡在住者（NTT コムリサーチのパネル）
調査方法	WEB 調査
第 1 波「東京都民の地震被害想定などに関する意識調査」	
有効回答	5,672 サンプル（予備サンプル含む）
調査期間	2022 年 3 月 4 日～28 日
第 2 波「首都直下地震時などの東京都民の防災行動に関する調査」	
有効回答	4,478 サンプル（第 1 波と同一パネル、期間内で可能な限り回収）
調査期間	2022 年 3 月 28 日～4 月 21 日

表 1.2 調査対象者の割付結果

		全体	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区	江東区	品川区	目黒区
全体	実数	4478	83	88	94	97	89	86	90	93	98	94
男性	実数	2195	40	41	45	49	44	42	44	44	49	46
	20代	実数	281	4	4	6	9	5	5	4	7	10
	30代	実数	438	8	10	9	10	9	8	10	7	9
	40代	実数	489	10	8	10	10	10	9	10	10	10
	50代	実数	493	8	10	10	10	10	10	10	10	10
	60代	実数	494	10	9	10	10	10	10	10	10	10
女性	実数	2283	43	47	49	48	45	44	46	49	49	48
	20代	実数	400	6	9	9	8	5	7	8	9	10
	30代	実数	463	8	9	10	10	9	8	10	9	10
	40代	実数	477	10	9	10	10	10	10	10	10	10
	50代	実数	487	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	60代	実数	456	9	10	10	10	8	10	10	10	10

		全体	大田区	世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区
全体	実数	4478	96	97	92	91	94	93	92	88	100	95
男性	実数	2195	47	47	48	47	45	44	42	44	50	47
	20代	実数	281	7	7	8	10	8	7	8	10	8
	30代	実数	438	10	10	10	7	5	9	10	6	10
	40代	実数	489	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	50代	実数	493	10	10	10	10	9	10	10	10	10
	60代	実数	494	10	10	10	10	8	10	10	10	10
女性	実数	2283	49	50	44	44	49	49	45	44	50	48
	20代	実数	400	10	10	7	8	10	9	7	7	10
	30代	実数	463	9	10	8	8	10	10	8	10	10
	40代	実数	477	10	10	9	10	9	10	10	10	10
	50代	実数	487	10	10	10	8	10	10	9	10	10
	60代	実数	456	10	10	10	10	10	8	10	10	10

		全体	足立区	葛飾区	江戸川区	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
全体	実数	4478	98	91	99	98	94	94	87	89	93	83
男性	実数	2195	50	45	50	50	47	44	42	43	46	41
	20代	実数	281	10	6	10	10	8	6	2	3	6
	30代	実数	438	10	10	10	10	10	8	10	10	9
	40代	実数	489	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	50代	実数	493	10	9	10	10	10	10	10	10	10
	60代	実数	494	10	10	10	10	9	10	10	10	10
女性	実数	2283	48	46	49	48	47	50	45	46	47	42
	20代	実数	400	8	7	9	9	8	10	8	9	7
	30代	実数	463	10	10	10	9	10	9	8	9	10
	40代	実数	477	10	9	10	10	10	8	10	9	10
	50代	実数	487	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	60代	実数	456	10	10	10	10	10	10	9	10	5

		全体	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市	国立市	福生市	狛江市
全体	実数	4478	95	90	86	90	93	92	92	84	76	85
男性	実数	2195	47	42	41	47	49	43	43	42	38	39
	20代	実数	281	9	5	3	8	9	6	3	2	0
	30代	実数	438	9	7	9	9	10	8	10	10	6
	40代	実数	489	9	10	9	10	10	9	10	10	10
	50代	実数	493	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	60代	実数	494	10	10	10	10	10	10	10	10	10
女性	実数	2283	48	48	45	43	44	49	49	42	38	46
	20代	実数	400	9	8	10	9	10	10	4	3	8
	30代	実数	463	10	10	10	8	7	9	9	9	10
	40代	実数	477	10	10	9	7	9	10	10	10	9
	50代	実数	487	9	10	10	9	9	10	10	10	10
	60代	実数	456	10	10	6	10	10	10	10	9	6

		全体	東大和市	清瀬市	東久留米	武蔵村山	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野	西東京市	西多摩郡
全体	実数	4478	88	87	92	77	91	87	65	82	94	56
男性	実数	2195	41	42	45	39	41	39	31	39	47	32
	20代	実数	281	1	3	7	2	1	0	1	1	7
	30代	実数	438	10	10	10	9	10	9	3	8	10
	40代	実数	489	10	10	8	9	10	10	8	10	10
	50代	実数	493	10	9	10	9	10	10	9	10	10
	60代	実数	494	10	10	10	10	10	10	10	10	9
女性	実数	2283	47	45	47	38	50	48	34	43	47	24
	20代	実数	400	8	6	7	6	10	9	5	8	10
	30代	実数	463	10	10	10	10	10	6	9	9	8
	40代	実数	477	10	9	10	5	10	10	9	10	8
	50代	実数	487	10	10	10	10	10	9	10	10	4
	60代	実数	456	9	10	10	7	10	9	5	7	8

また、設問数の都合上、調査を2波に分割して行った。第1波は、2022年3月4日～28日、第2波は2022年3月28日～4月21日で回収を行った。なお、パネル調査ではない

め同一の設問を問うた設問はなく、比較も行わない。結果的に、4,478 サンプルを得た。

割付の結果も表 1.2 に示す。特に、20 代のパネルについて、目標とする 10 サンプルが得られていない自治体が多くみられた。

1.4 分析手続き

この調査結果について、本稿では、東京都の 23 区内外の住民で差があるのかに主眼を置いて分析を行う。

東京都を含む南関東地域の地下はプレートが多層にわたって存在しているため、地震発生のメカニズムが未だ十分に特定されていない（内閣府，2013a）。国の公表している被害想定では、様々な断層モデルをふまえ、複数の発生場所を仮定し、そのうち被害が最も大きくなると推定された「都心南部直下地震（Mw7.3）」を基に検討が行われた（図 1.1）。

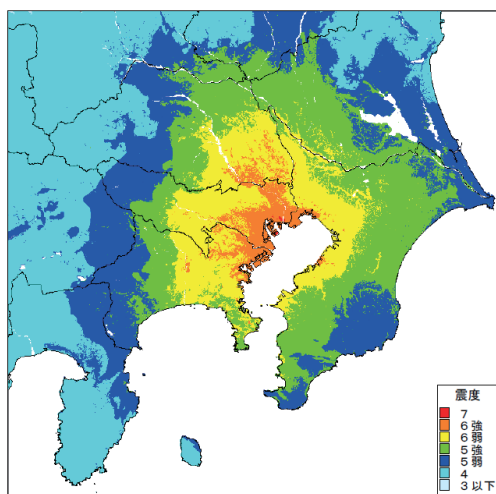


図 1.1 都心南部直下地震（Mw7.3）の場合の震度分布（出典：内閣府，2013b：p.44）

だが、それ以外にも、東京都の被害想定においては、立川断層帯を震源とする地震に関する被害想定も行われるなど（図 1.2）、様々な場所で発生する地震が考えられる。人口の多さや政治・経済の中心が 23 区に集まっていることもあり、23 区内の被害に焦点が当たりがちであるが、東京都下においても被害が生じる可能性はある。

そこで本研究では、23 区内と 23 区外の住民で、マグニチュード 7 の地震が発生したときの被害に関する認知体系が異なるのかに焦点をおき、分析を行うこととする。

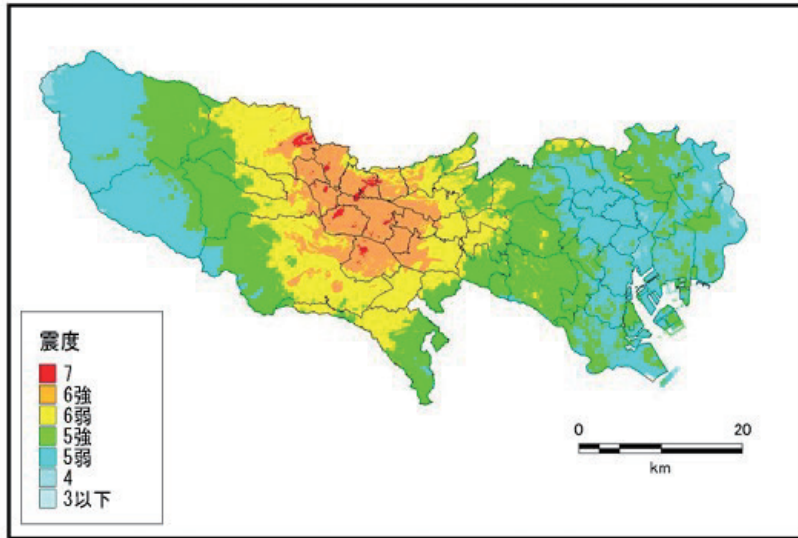


図 1.2 立川断層帯地震の震度分布の震度分布（出典：東京都防災会議，2022：p. 1-24）

2. デモグラフィック

まず、デモグラフィックとして、性年代、ならびに通勤・通学先について、23区内と23区外の住民で分けた結果が表 2.1 である。いずれにおいても若干、女性が多く、年代としても 20代が少なかった。また、23区外に居住していても約半数の 43.9%が 23区内に通勤または通学するなど、何らかの形で 23区内に関わっている人が多かった。

表 2.1 調査対象者のデモグラフィック

		居住地 23区内 (n=2138)	居住地 23区外 (n=2340)	合計 (N=4478)
性別	男性	49.3%	48.7%	49.0%
	女性	50.7%	51.3%	51.0%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
年代	20代	16.9%	13.7%	15.2%
	30代	19.6%	20.6%	20.1%
	40代	21.2%	21.9%	21.6%
	50代	21.2%	22.5%	21.9%
	60代	21.1%	21.3%	21.2%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%
通勤・ 通学先	23区内	76.5%	27.4%	50.8%
	23区外	1.2%	43.9%	23.5%
	東京都以外	3.6%	4.4%	4.0%
	通勤も通学も していない	18.8%	24.3%	21.7%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%

次に、家族との同居状況について問うた結果が図 2.1 である。23 区内では一人暮らしの割合が高く、23 区外では家族と同居している割合が有意に高かった。

また、住宅環境も 23 区内は賃貸と所有の集合住宅の人が多く、23 区外は特に戸建てを所有している人が多かった（図 2.2）。その住宅の居住年数について問うた結果が図 2.3 である。1995 年の阪神・淡路大震災以降に建てられたのは 23 区内外のいずれでも 4 割ほどであった。築 40 年未満の住宅が 8 割以上である。

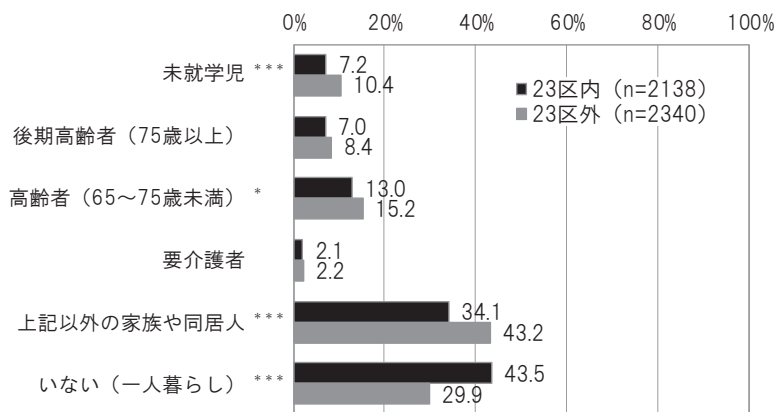


図 2.1 家族との同居状況 (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

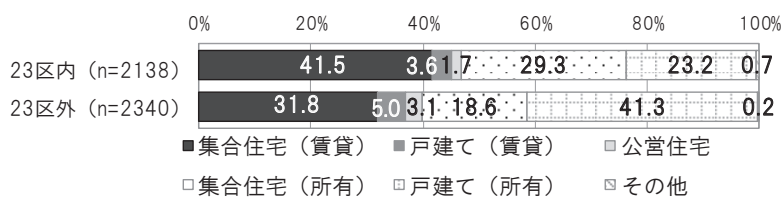


図 2.2 住宅環境 (χ^2 検定, $p < .001$)

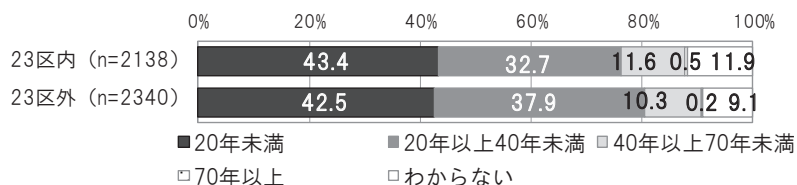


図 2.3 築年数 (χ^2 検定, $p < .001$)

最後に、地震の被災経験ならびに防災訓練への参加度を問うた。

地震の被災経験については23区内外で有意な差は見られなかった。避難する必要があるような大きな地震を経験したことがある人は1割にも満たなかった(図2.4)。

防災訓練については、特に地震だけに限って聞いたわけではないが、半数以上が「参加したことがない」と答えていた。積極的に参加している層は2割にも満たなかった(図2.5)。

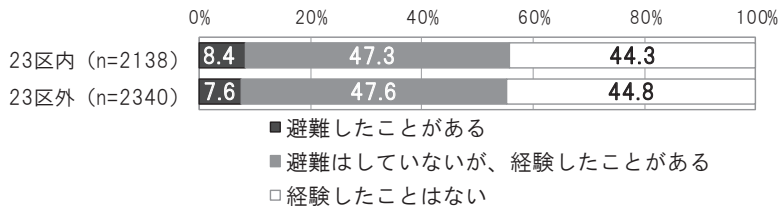


図 2.4 地震の被災経験 (χ^2 検定, n. s.)

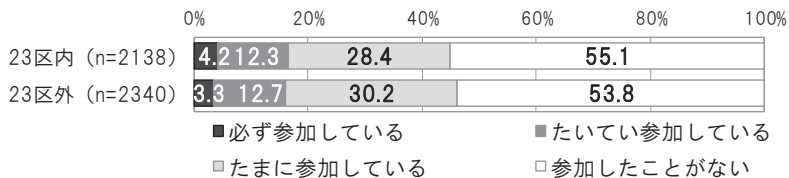


図 2.5 防災訓練への参加状況 (χ^2 検定, n. s.)

3. 地震に関する知識と心理

本章では首都直下地震を中心とした、具体的な地震に関する知識について述べる。

3.1 首都直下地震に関する情報接触

まず、首都直下地震に関して、どのようなメディアから情報を入手したかを複数回答で問うた。その結果が図3.1である。「テレビで首都直下地震に関する情報を見た」という人は4割弱であった。基本的にテレビが主たる情報入手手段であることがわかる。防災マップなどの行政から公表されている情報はあまりみられていなかった。一方で、「あてはまるものがない」と回答する人が半数近くいた。

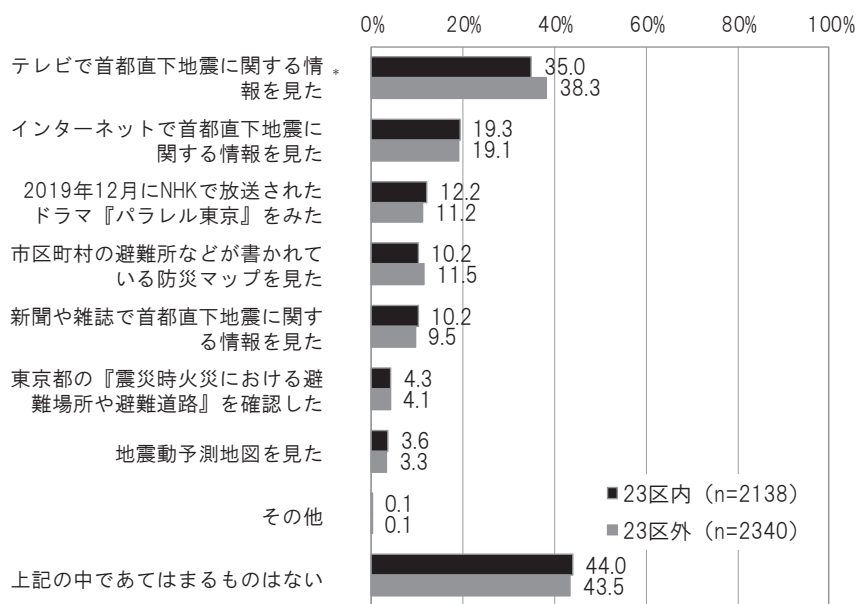


図 3.1 首都直下地震に関する情報に接触したか (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

次に2019年12月に、国（内閣府）が2013年に公表した首都直下地震の被害想定を素地としてドラマ化が行われた「パラレル東京」のテーマたるリスク事象について、見聞きしたことがあるかを複数回答で問うた。つまり、この「パラレル東京」を視聴した人であれば特に、「テレビで見聞きしたことがある」と回答する割合が高いと考えられる。具体的に、「自分自身の電話がつながらなくなる」「自分自身のメールやLINE・Twitterが使えなくなる」「自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる」「自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる」「自分自身がデマ・流言にまどわされる」「自分自身が土砂災害に巻き込まれる」「自分自身が群集雪崩や将棋倒しに巻き込まれる」「自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる」である。その結果が図3.2から図3.9である。

結果、いずれも同様の傾向を示していた。最も多いのが「テレビで見聞きしたことがある」という回答であり、次いで「インターネットで見聞きしたことがある」という回答であった。そして、23区内外での居住地で比較したときに、ほとんどが有意に23区外の人「テレビで見聞きしたことがある」人が多く、「インターネットで見聞きしたことがある」人は23区内の人が多かった。

また、「自分自身の電話がつながらなくなる」「自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる」というリスクについては、「見聞きしたことがない」と回答する人は他の項目より比較的、少なかった。逆に生命に直結するようなリスクである「自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれる」「自分自身が土砂災害に巻き込まれる」リスクについては認知し

ている人は少なかった。

なお、「パラレル東京」の視聴有無で比較した結果では、いずれの事象についても有意に「テレビで見聞きしたことがある」割合が高かった。「パラレル東京」を視聴した人は数は少ないものの、6～7割程度の人が「テレビで見聞きしたことがある」と回答しており、視聴していない人は4～5割程度であった。

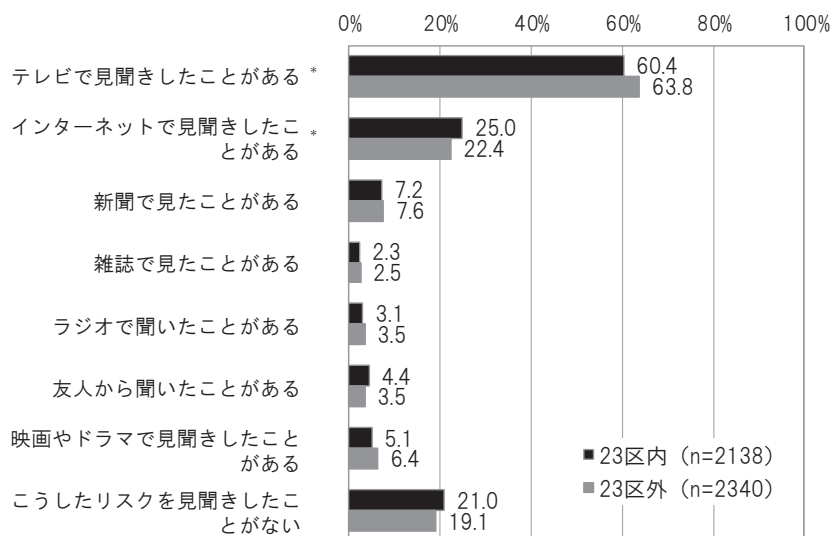


図 3.2 自分自身の電話がつながらなくなるリスクの情報源 (MA)
(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

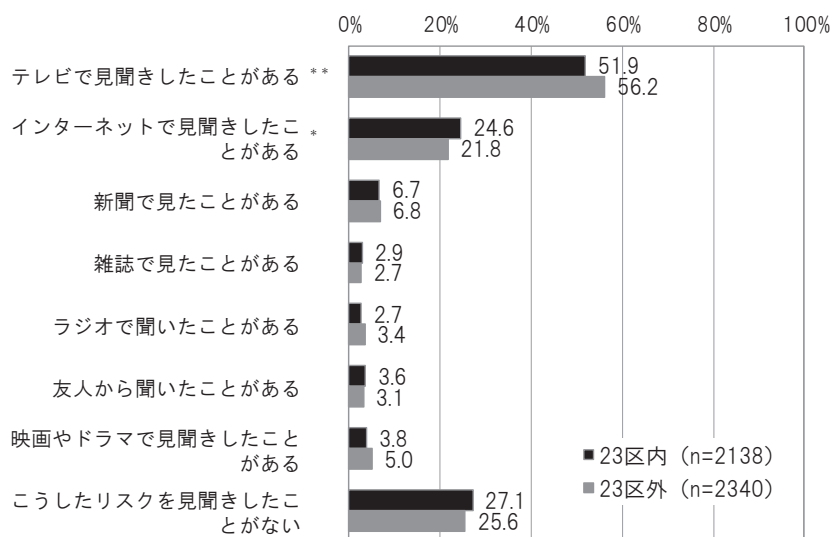


図 3.3 自分自身のメールやLINE・Twitterが使えなくなるリスクの情報源 (MA)
(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

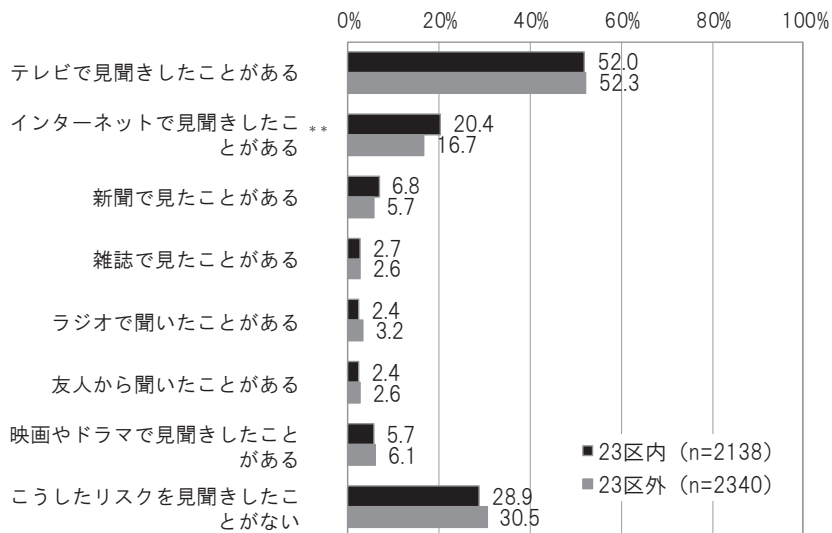


図 3.4 自分自身が大規模な延焼火災に巻き込まれるリスクの情報源 (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

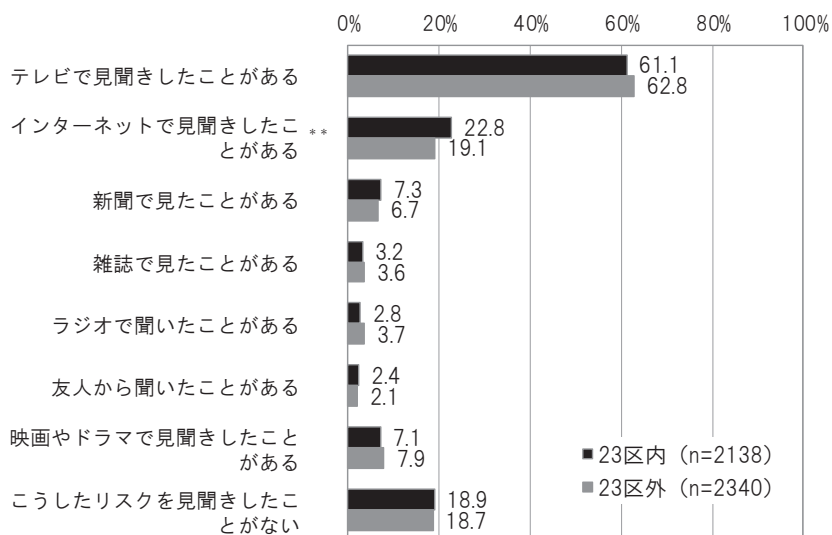


図 3.5 自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められるリスクの情報源 (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

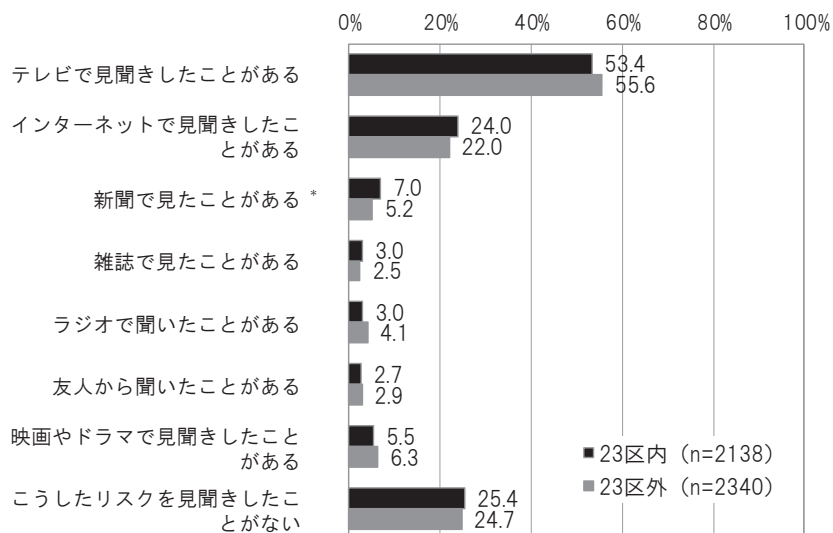


図 3.6 自分自身がデマ・流言にまどわされるリスクの情報源 (MA)
 (χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、** : $p < .01$ 、*** : $p < .001$)

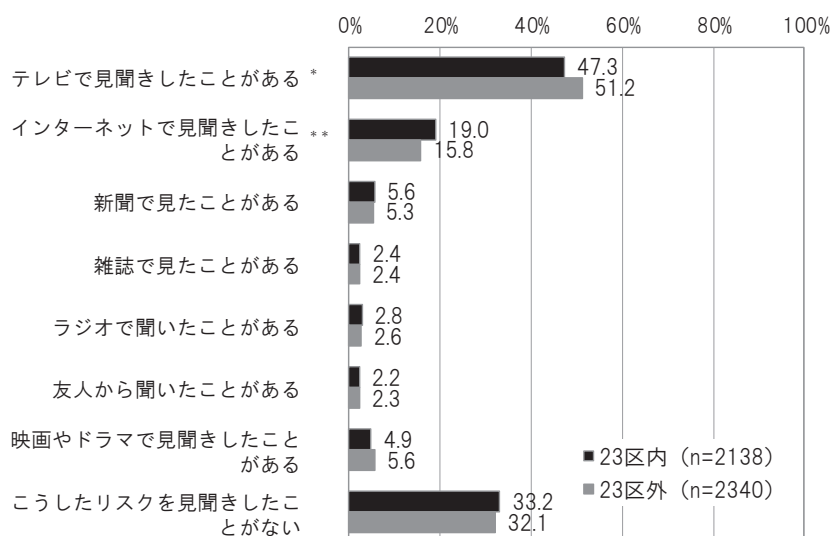


図 3.7 自分自身が土砂災害に巻き込まれるリスクの情報源 (MA)
 (χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、** : $p < .01$ 、*** : $p < .001$)

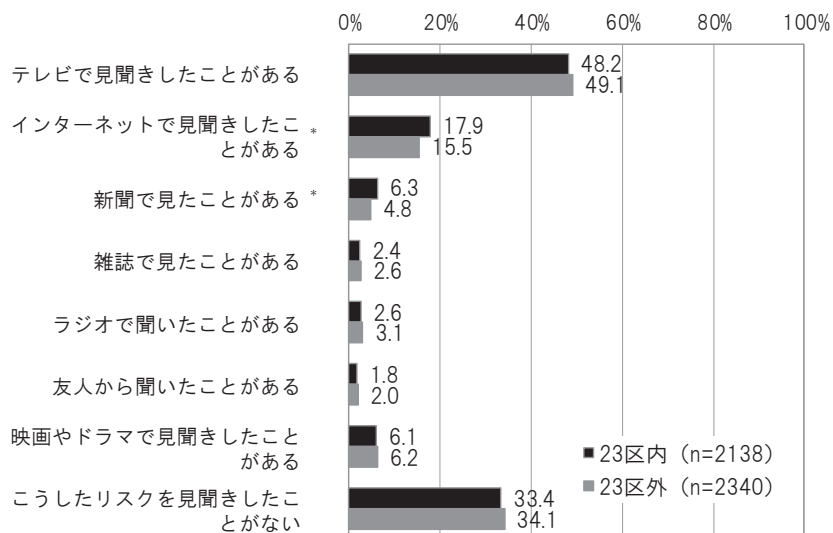


図 3.8 自分自身が群集雪崩や将棋倒しに巻き込まれるリスクの情報源 (MA)
 (χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

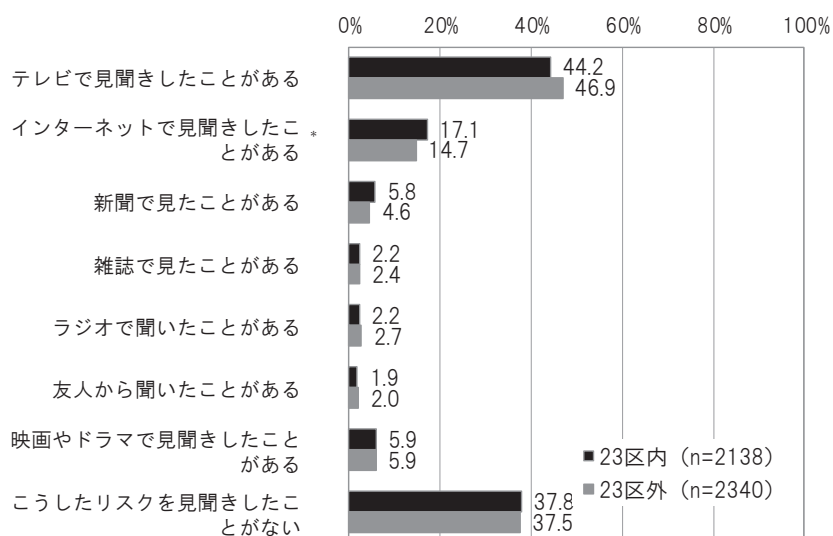


図 3.9 自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれるリスクの情報源 (MA)
 (χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

3.2 地域危険度の認知

次に、東京都が公表している「あなたのまちの地域危険度」の結果の認知について問うた。東京都は定期的に、市街化地域における地震に関する危険性を5つのランクで相対的に評価している。そこでは、建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度ならびにそ

れらを勘案した上での総合危険度について評価、公表が行われている。特に、ここで危険度が高い地域が多いとされているのは 23 区の北東部や杉並区、大田区などである。また、活動困難係数は 23 区外の方が、危険度が高い地域が多い。自宅がある地域に関する、それぞれの地域危険度についての認知状況を問うた結果が図 3.10 から図 3.13 である。

結果、23 区内であろうと 23 区外であろうと、建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度、総合危険度のいずれであってもランクを認知している人は 1 割程度であった。また、「ランクについてよくわからない」と回答した人が 6 割以上であった。

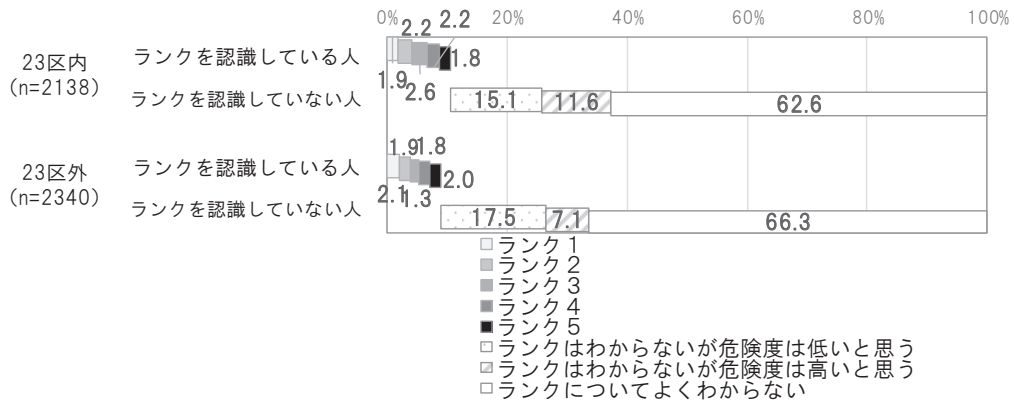


図 3.10 居住地の建物倒壊危険度ランク (χ² 検定, p<.001)

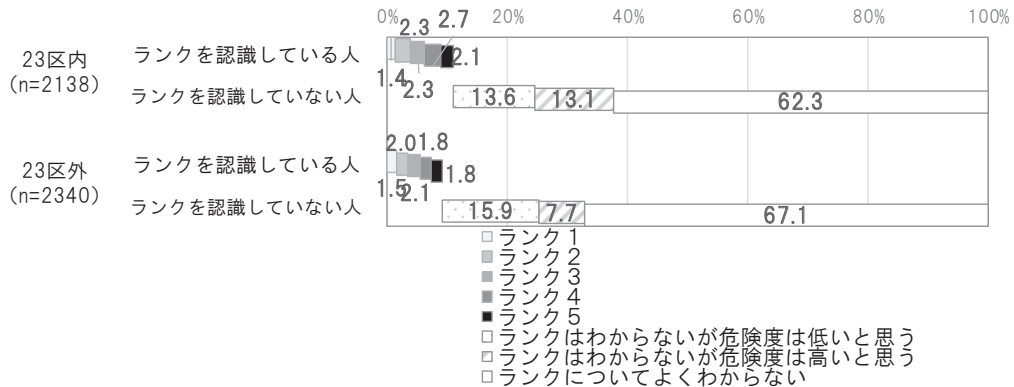


図 3.11 居住地の火災危険度ランク (χ² 検定, p<.001)

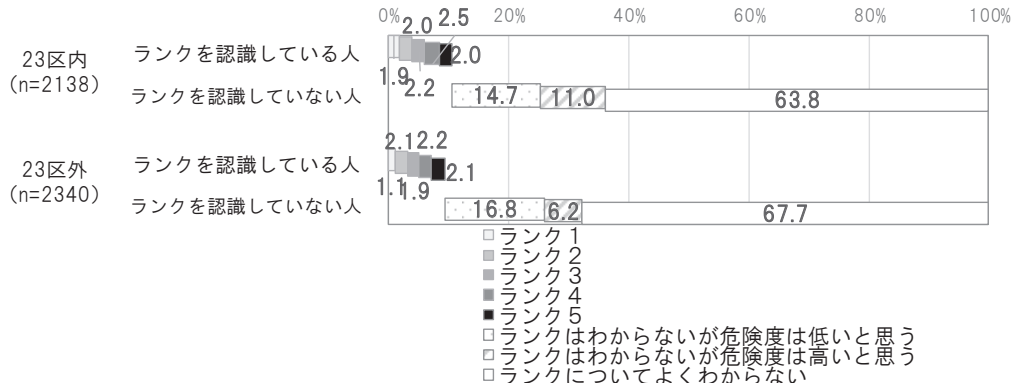


図 3.12 居住地の災害時活動困難度ランク (χ^2 検定, $p < .001$)

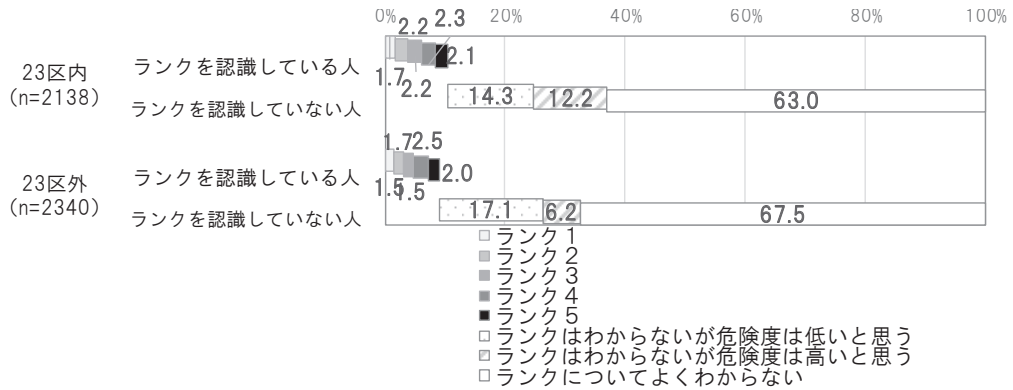


図 3.13 居住地の総合危険度ランク (χ^2 検定, $p < .001$)

同様に通勤・通学先についても建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度、総合危険度の認知状況を問うた。ここでは、23 区内に通勤・通学している人と 23 区外に通勤・通学している人で分けた。その結果が図 3.14 から図 3.17 である。こちらも「ランクについてよくわからない」と回答した人が大半であった。

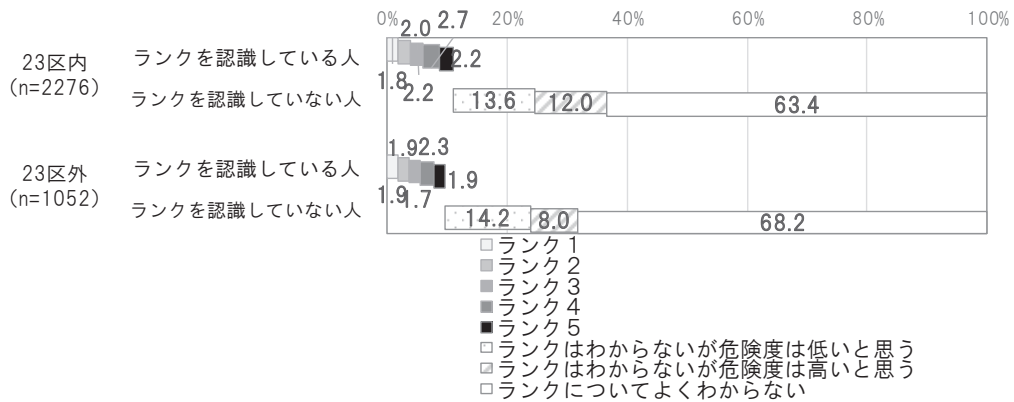


図 3.14 通勤・通学先の建物倒壊危険度ランク (χ^2 検定, $p < .001$)

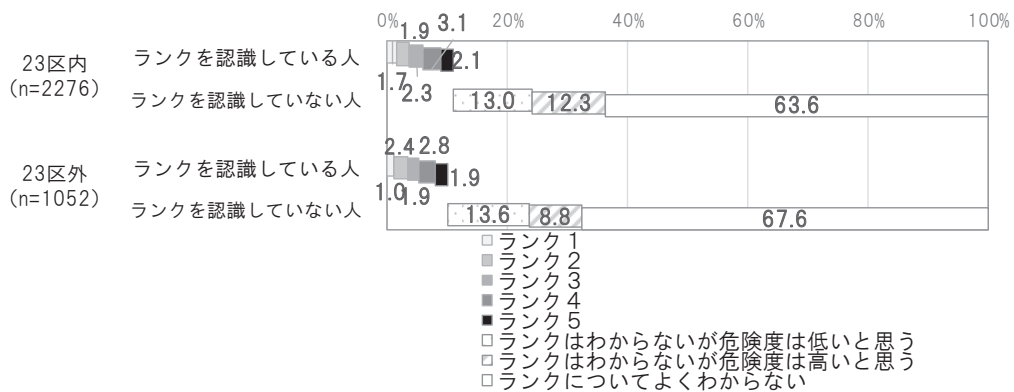


図 3.15 通勤・通学先の火災危険度ランク (χ^2 検定, $p < .001$)

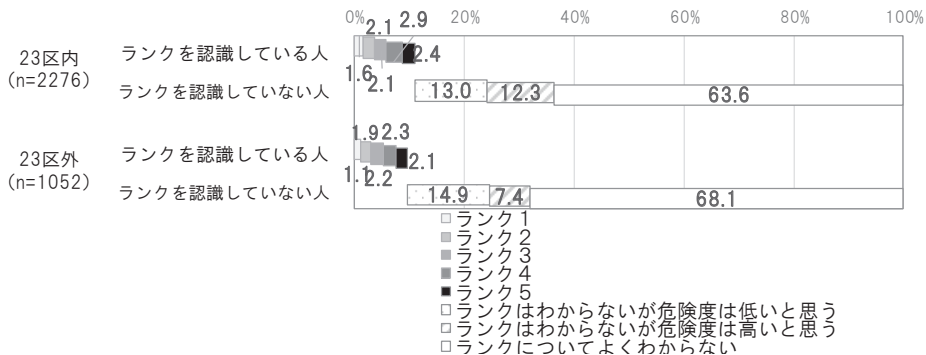


図 3.16 通勤・通学先の災害時活動困難度ランク (χ^2 検定, $p < .001$)

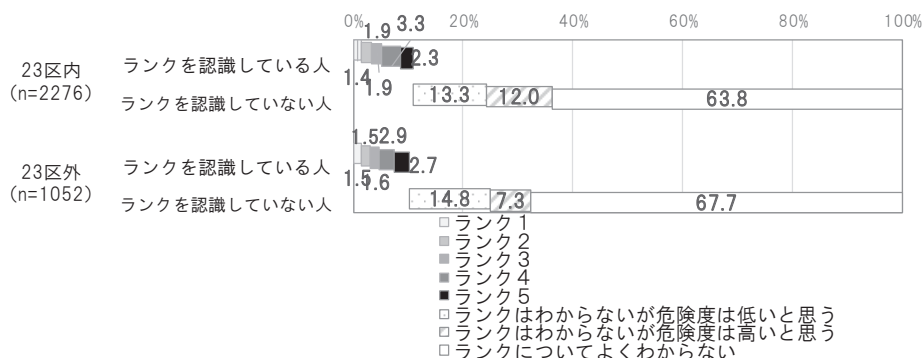


図 3.17 通勤・通学先の総合危険度ランク (χ^2 検定, $p < .001$)

3.3 『東京防災』の認知

次に、2015年に東京都内の全家庭に配布された『東京防災』の認知状況について問うた。この冊子は、首都直下地震を中心に、多様な災害に対する備えを行うためのガイドブックである。2023年現在でもインターネットやスマートフォンのアプリ上で閲覧が可能である。少なくとも2015年9月時点で東京都内に住居があれば必ず届いていると考えられる冊子である。

この『東京防災』の認知度が図 3.18 である。地域危険度の情報と異なり、認知度は高かった。また、配布から7年以上が経過しているが「中身も覚えている」と回答した人も1割程度いた。また、23区内外でその認知度に有意な差はみられなかった。

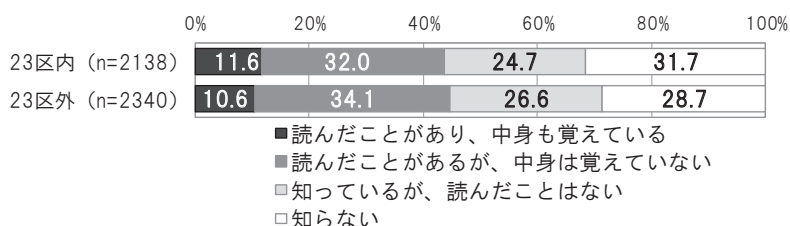


図 3.18 『東京防災』の認知度 (χ^2 検定, n. s.)

3.4 被害想定認知と心理

次に、被害想定認知状況について問うた。なお、2012年に東京都防災会議より、2013年に内閣府中央防災会議より首都直下地震に関する被害想定が、この調査が実施された直後の2022年4月には東京都防災会議より「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」が公表されていた。先に述べた通り、内閣府の被害想定は基本的に、23区内の被害想定状況に重きがおかれている。そこで、東京都や内閣府が被害想定を出していることを知っているか問うた。

その結果が図 3.19 である。「想定の内容まで知っている」という人は 1 割にも満たなかった。想定があることを認識している人は多かったが、その具体的な内容はほとんど知られていなかった。また、23 区内外で有意な差はみられなかった。

では、こうした被害想定について都民はどのように考えているのか。被害想定に関する設問を 10 項目用意し、それぞれに対して 4 点尺度で問うた。その結果が図 3.20 である。

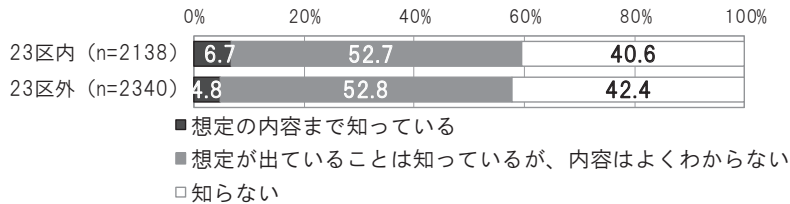


図 3.19 被害想定への認知度 (χ^2 検定, n. s.)

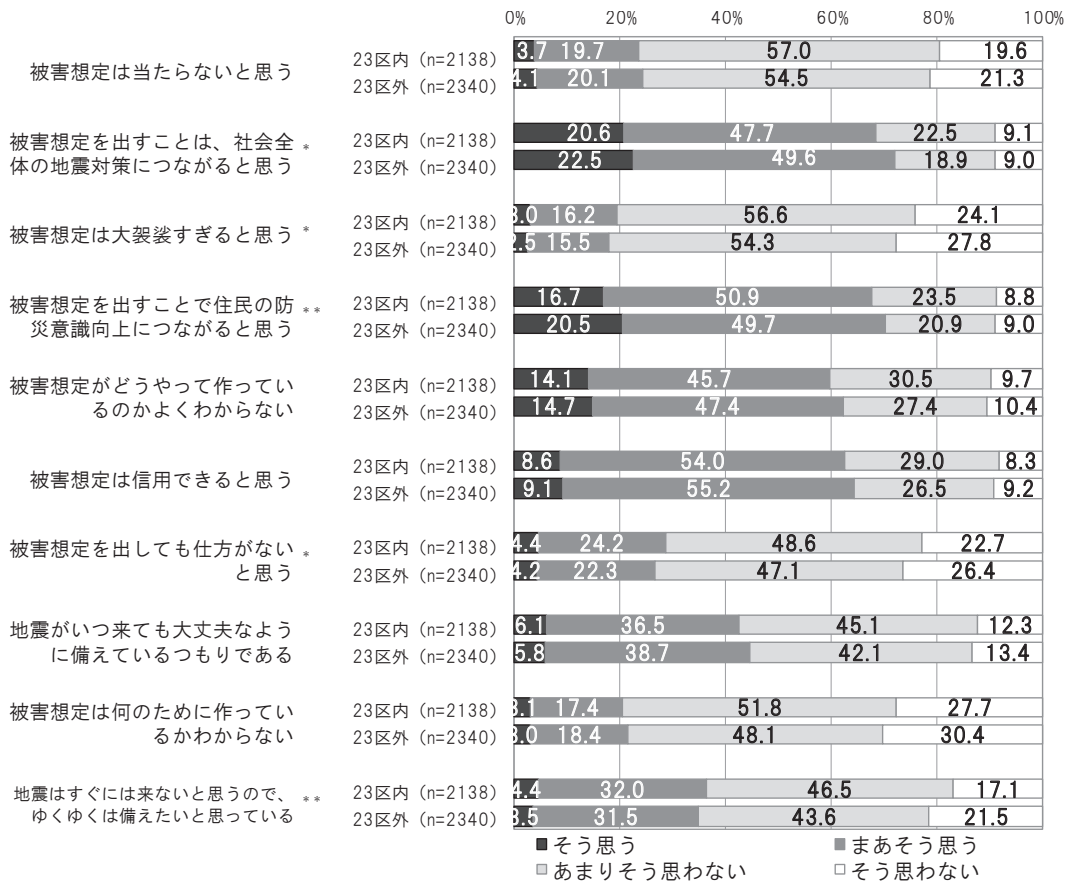


図 3.20 被害想定に対する意識

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

なお、ここでは被害想定を「知らない」と回答している人も含まれている。全体的にポジティブな意見が目立ち、かつ、23区外の住民の方が有意にポジティブな結果が得られた。ただし、極端に「そう思う」割合が多いというよりは「まあそう思う」と回答する割合が多かった。

4. 都民の考える被害想定

次に、首都直下地震を中心とした、具体的な地震の被害想定について問うた。つまり、地震が発生した際のイメージは、どのようなものか、そしてどのように行動すると想定しているのか。ここでは、先に述べた通りマグニチュード7程度の地震が首都圏で発生した場合と仮定した。

4.1 首都直下地震への意識

まず、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生すると思うかを問うた結果が図4.1である。7割以上の方が「発生すると思う」「発生する可能性が高いと思う」と回答した。なお、23区内外で有意な差はみられなかった。

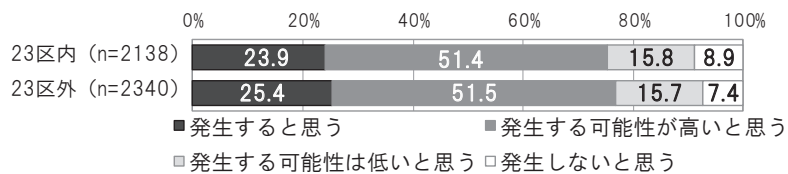


図 4.1 首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生すると思うか (χ^2 検定, n. s.)

つづいて、首都直下地震以外も含めた、地震全般の関心度、不安感、対策の必要性を感じるかを問うた結果がそれぞれ図4.2から図4.5である。関心度について、23区内外のいずれも首都直下地震について「関心がある」「やや関心がある」と回答した人が8割以上で、他の地震と比較しても非常に多かった。不安感も同様に、首都直下地震に「不安を感じている」「やや不安を感じている」と回答した人が8割以上で、他の地震と比較しても非常に多かった。対策の必要性についても、「対策の必要性を感じている」「やや対策の必要性を感じている」と回答する人が8割以上で、こちらも他の地震と比較しても非常に多かった。また、首都直下地震に関する関心度ならびに不安感、対策の必要性については23区内外で有意な差がみられた(それぞれ $\chi^2(3) = 8.930$, $p < .05$ ならびに $\chi^2(3) = 10.240$, $p < .05$)。要は全体として、首都直下地震について他の地震と比較して、ある程度の関心があり、不安感も高く、対策の必要性を感じている人が多い。そして、関心度と不安感について、若干、23区外の居住している人の方が高い結果である。

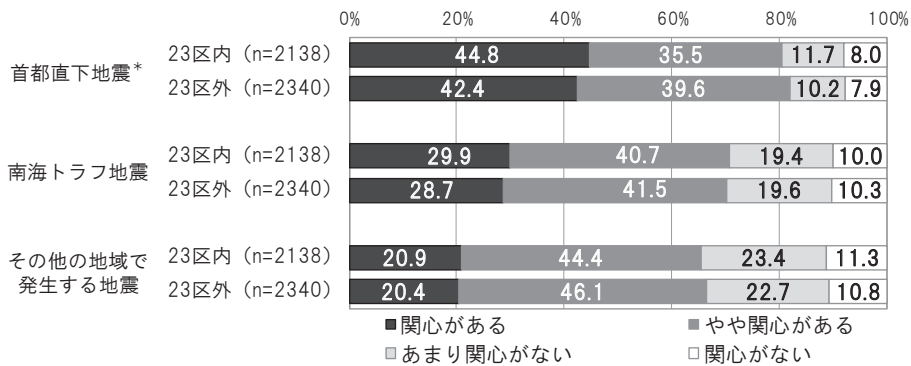


図 4.2 様々な地震に対する関心度

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

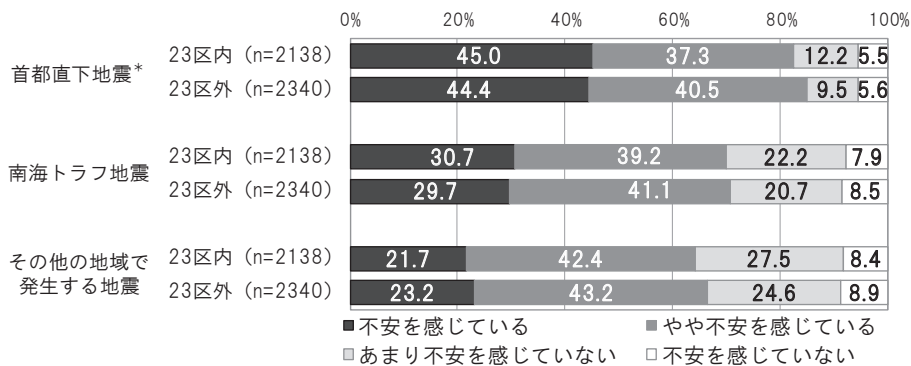


図 4.3 様々な地震に対する不安感

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

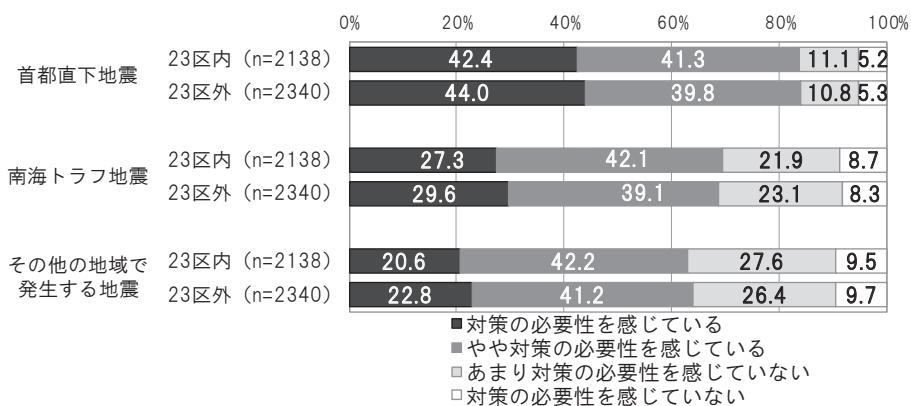


図 4.4 様々な地震に対して対策の必要性を感じるか

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

4.2 自宅ならびに周囲の被害

次に、都民の考える被害想定として、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生した場合の自宅や自宅周辺の被害イメージについて問うた。

第一に揺れによる被害である。「自宅が全壊する」と考えている人は全体の1割程度であり、「自宅の一部が壊れる」または、「自宅は壊れないが、家財道具などが倒れる」程度の被害があると考えているのがそれぞれ3割程度であった。また、「わからない」と回答する人は1割程度であった（図4.5）。

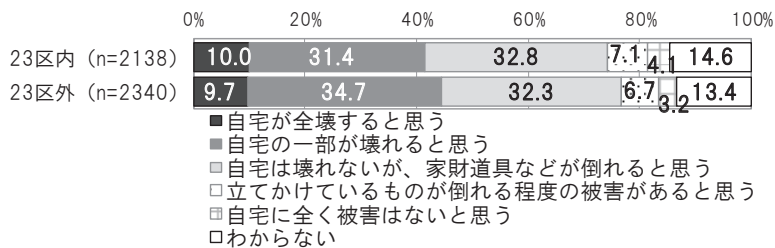


図 4.5 地震の揺れで自宅が受ける被害のイメージ (χ^2 検定, n. s.)

第二に津波による被害である。懸念されている首都直下地震はその名の通り、直下型であるため、津波が発生するとは考えにくい。また、海溝型の地震が発生したとしても東京都内に津波が到達する可能性はあまりない。江戸川区・江東区・中央区・港区・品川区・大田区などでは一部、津波の危険性があるが、かなり被害は限定的と考えられている。ましてや、海に面していない23区外には津波が到達することはほぼない。そうしたなかで、23区内外問わず、津波によって「自宅が流される」と考える人が数%、「自宅の一部が壊れる」と考える人が1割程度存在した。また、23区内では、「自宅は壊れないが、浸水する」「自宅は浸水しないが、周囲は浸水する」と考える人もそれぞれ1割程度存在していた（図4.6）。特に、23区内では「津波による被害はない」と考える人は4割ほどしかいなかった。これは、東北地方太平洋沖地震発生時の津波被害の印象が強すぎるのではないかと考えられる。

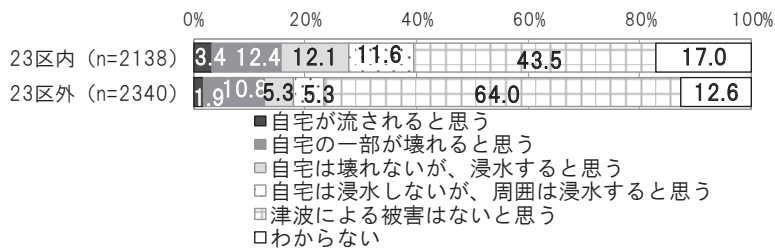


図 4.6 地震後の津波で自宅が受ける被害のイメージ (χ^2 検定, $p < .01$)

第三に火災による被害である。首都直下地震では津波よりもむしろ、火災による被害が懸念されている。これについて都民はどのように考えているのか。全体として最も多いのが「わからない」という回答であった。3割以上がこのように回答していた。これは揺れや津波による被害と比較しても非常に多かった（図 4.7）。なお、全体として 23 区内の方が自宅周辺が被害を受けると思っている割合が高かった。

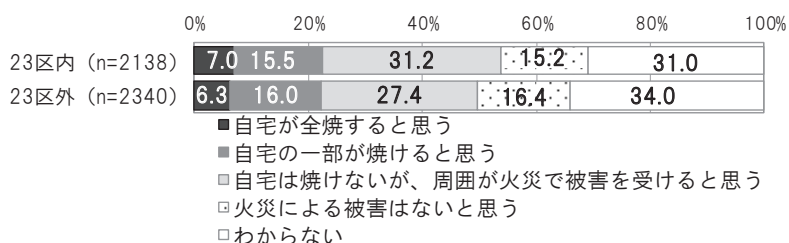


図 4.7 地震後の火災で自宅が受ける被害のイメージ (χ^2 検定, $p < .05$)

つづいて、自宅周辺のインフラの被害想定について問うた。首都圏でマグニチュード 7 程度の地震が発生した場合の電気、水道、ガス、通信・インターネット、道路、鉄道、バスの被害の認識について問うた。

第一に自宅周辺の電気の復旧タイミングである（図 4.8）。これは、以下のインフラ全般にいえることであるが、まず、「わからない」という回答が 3 割と一定程度あった。揺れなどについてはある程度、イメージできたとしても、中々、こうしたインフラの復旧に対するイメージしづらいためであろう。次に、被害がいつまで続くのか、という点について、具体的に回答している人でもその期間はばらばらであった。

第二に水道である（図 4.9）。先の電気と同様に「わからない」という回答が多く、被害がいつまで続くと思うか、人によってその想像する期間はばらばらであった。

第三にガスである（図 4.10）。先の電気や水道と同様に「わからない」という回答が多く、被害がいつまで続くと思うか、その回答はばらばらであった。おおむね、その割合についてはこれらの 3 つは同じ傾向である。

第四に通信・インターネットである（図 4.11）。こちらこれまでの電気、水道、ガスと同様に「わからない」という回答が多く、被害がいつまで続くと思うか、その回答はばらばらであった。ただし、若干、これらよりも早めに復旧すると考えている人が多かった。

第五に道路である（図 4.12）。自宅周辺の道路が被害を受ける期間について、「わからない」という回答が多く、被害がいつまで続くと思うか、その回答はばらばらであった。ただし、若干「1 か月以上復旧できないと思う」と回答する人がこれまでよりも多かった。

第六に鉄道である（図 4.13）。自宅周辺の鉄道が被害を受ける期間について、「わからな

い」という回答が多く、被害がいつまで続くと思うか、その回答はばらばらであった。先の道路と同様に、若干「1か月以上復旧できないと思う」と回答する人が多かった。

最後にバスである（図 4.14）。自宅周辺のバスが被害を受ける期間について、「わからない」という回答が多く、被害がいつまで続くと思うか、その回答はばらばらであった。

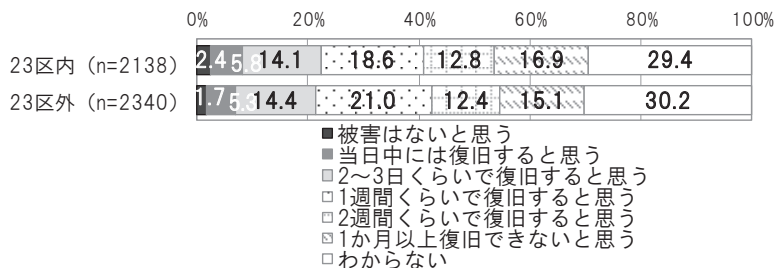


図 4.8 自宅周辺の電気の被害イメージ（ χ^2 検定, n. s.）

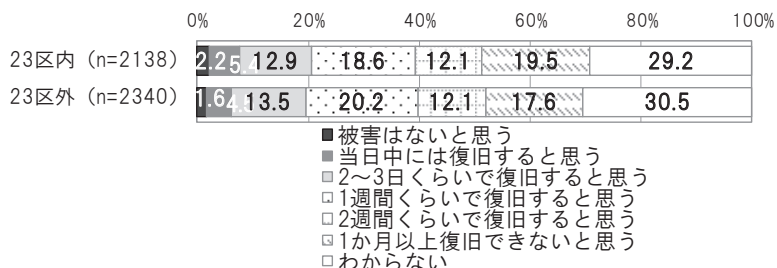


図 4.9 自宅周辺の水道の被害イメージ（ χ^2 検定, n. s.）

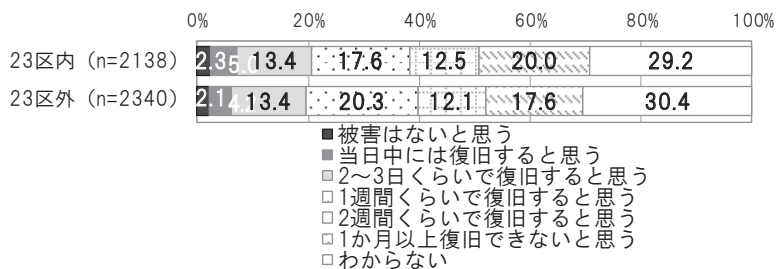


図 4.10 自宅周辺のガスの被害イメージ（ χ^2 検定, n. s.）

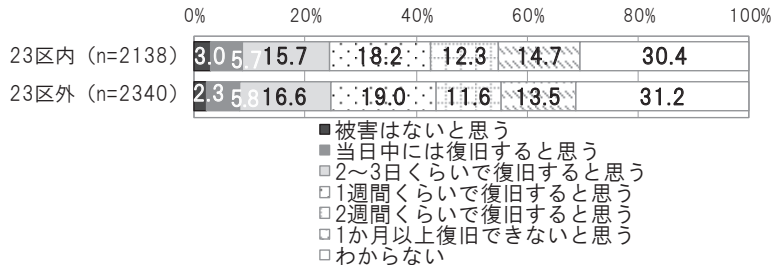


図 4.11 自宅周辺の通信・インターネットの被害イメージ (χ^2 検定, n. s.)

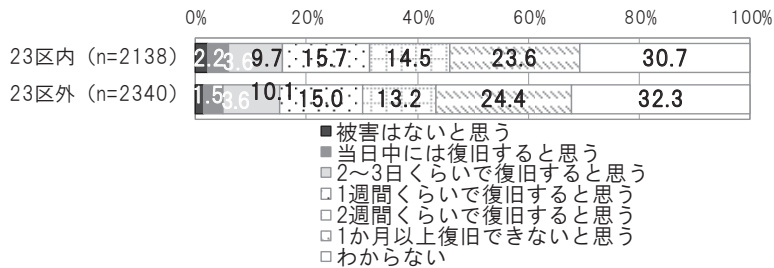


図 4.12 自宅周辺の道路の被害イメージ (χ^2 検定, n. s.)

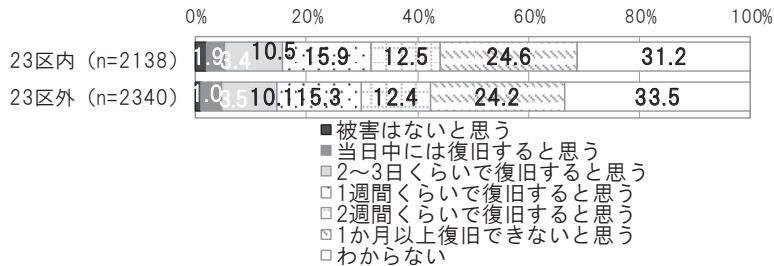


図 4.13 自宅周辺の鉄道の被害イメージ (χ^2 検定, n. s.)

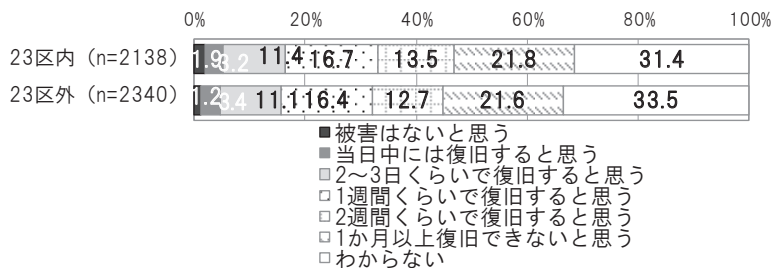


図 4.14 自宅周辺のバスの被害イメージ (χ^2 検定, n. s.)

4.3 発災時の行動

次に、発災時の行動についてどのように考えているかを述べる。

普段、よく出かける街なかで外出中にマグニチュード7程度の地震にあったときにどのような行動をとるかについて問うた。なお、この回答を得る以前に、前節の内容である、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生した場合に、自宅付近や通勤・通学先がどのような状況に陥っているかを問うており、ある程度の首都圏の状況をイメージした上で回答を得た。

その結果が図 4.15 である。「その場付近に留まる」と「帰宅する」がほぼ半分ずつの結果となった。つまり、その場での判断は人によって分かれるということである。なお、23区内と23区外の居住者で回答には有意な差がみられた ($\chi^2(1) = 8.479, p < .01$)。23区外の居住者の方が「帰宅する」と回答した割合が多かった。

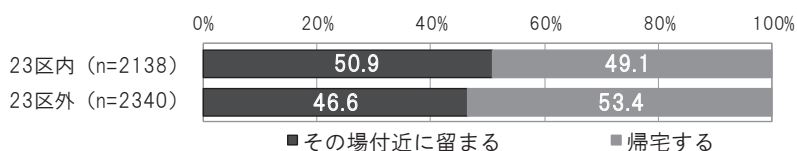


図 4.15 外出先での発災時の行動 (χ^2 検定, $p < .01$)

では、なぜこのような行動をとるといのか。その理由をそれぞれ複数回答で問うた。「その場付近に留まる」と回答した人の理由は図 4.16、「帰宅する」と回答した人の理由は図 4.17 である。

「その場付近に留まる」と回答した人の理由は、「公共交通機関が止まっていると思うからむやみに動いた方が危険と思うから」と選択した人が多かった。発災時にはみやみに移動をせず安全な場所に留まることが、発災時の行動の基本とされているが、その点を認識している人も一定程度いると考えられる。また、2011年の東日本大震災の時に帰宅困難となったことも影響していよう。

「帰宅する」と回答した人のうち23区内在住者で最も多かった理由は「歩いて帰れると思うから」で55.3%であった。全体として、マグニチュード7程度の地震が発生した場合に公共交通機関が動いているとは思っていない。そのため、何としてでも帰宅しようとする。そして、23区外在住者でもっとも多かった理由は「家族の安否が心配だから」で47.3%であった。家族の安否は、帰宅するうえで大事な理由である。事前の安否確認方法を決めている人がそもそも少ない(後述するが、全体の20%程度)こともあるが、それを決めているから帰宅しない、という理由にはなり得ない。ある程度は顔を見て確認したいという心理があると考えられる。だが、これは、発災時にはその場で一定期間、残留すべきということが受け取られていない証左である。

このように、家族と同居している割合が23区外の人が多いことから、「帰宅する」と回答した人が多いのであろう。外出先から半数程度の方が帰宅行動をとることは考慮してお

く必要があるだろう。

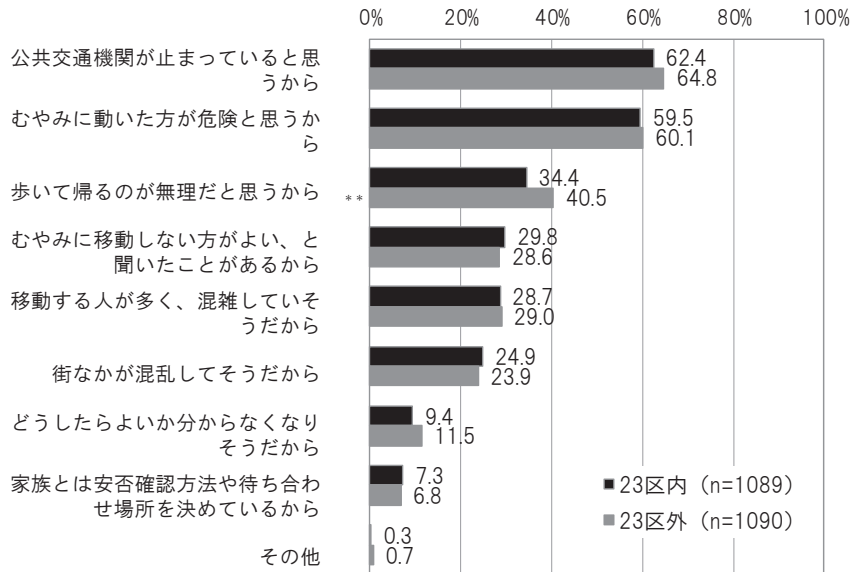


図 4.16 外出先でその場付近に留まる理由 (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$)

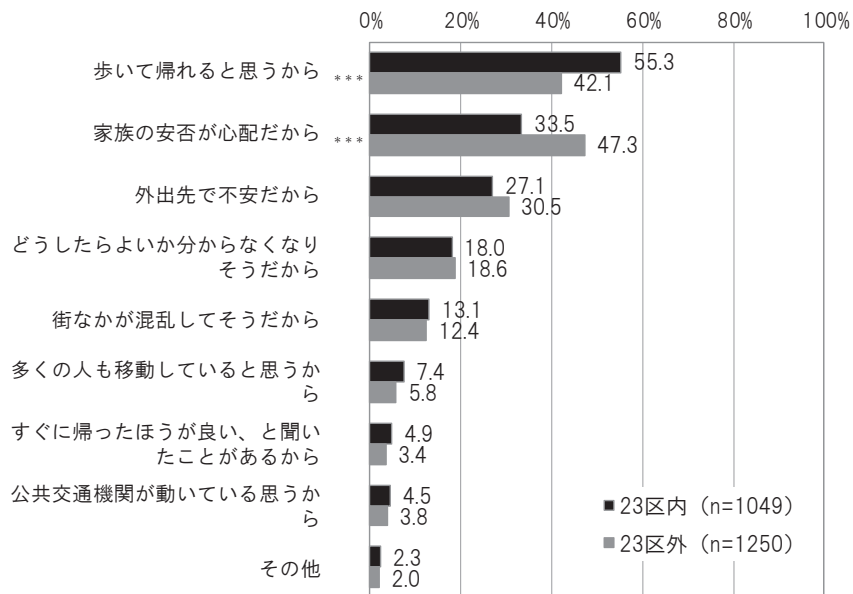


図 4.17 外出先から帰宅する理由 (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$)

4.4 発災後の避難行動

次に、発災後の避難行動について論じる。

一般的に地震が発生した後は、余震に対する不安などから避難することも考えられるが、首都直下地震に関しては繰り返しになるが、火災による被害が懸念される。そのため、火災からの避難ということも考えておく必要がある。広域避難場所に行くことが求められる。そこで、首都圏での地震発生時の避難行動のイメージを問うた。

まず、火災や揺れによる建物倒壊の影響で道路が通れないことが考えられるが、発災後に避難場所に行けると思うかを問うた結果が図 4.18 である。23 区の内外居住者で有意な差がみられた ($\chi^2(3) = 31.769, p < .001$)。全体として、23 区外の方が「すぐに避難場所まで行ける」と考えている人が多く、逆に 23 区内の方が「すぐに避難場所まで行けないと思う」と回答する人が多かった。

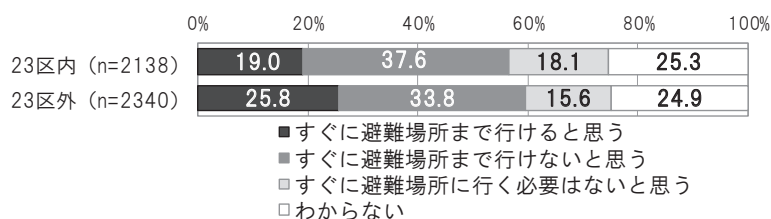


図 4.18 すぐに避難場所に行けると思うか (χ^2 検定, $p < .001$)

では、実際に火災発生時の避難先としてどこを想定しているのか。複数回答で問うた結果が図 4.19 である。

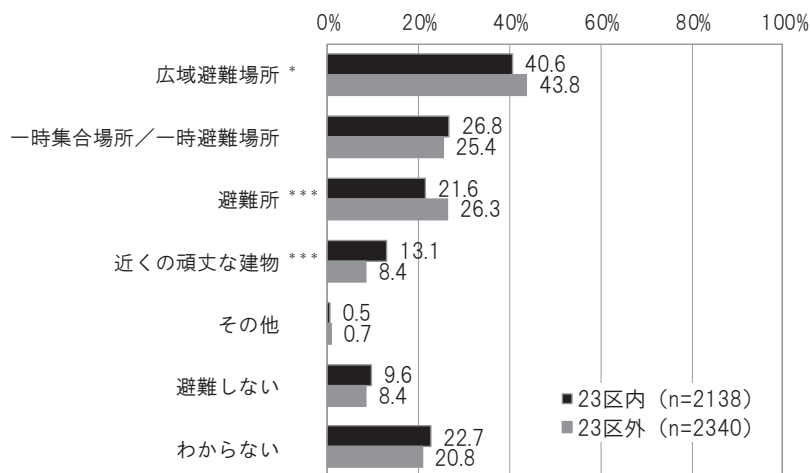


図 4.19 火災発生時の避難先 (MA)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

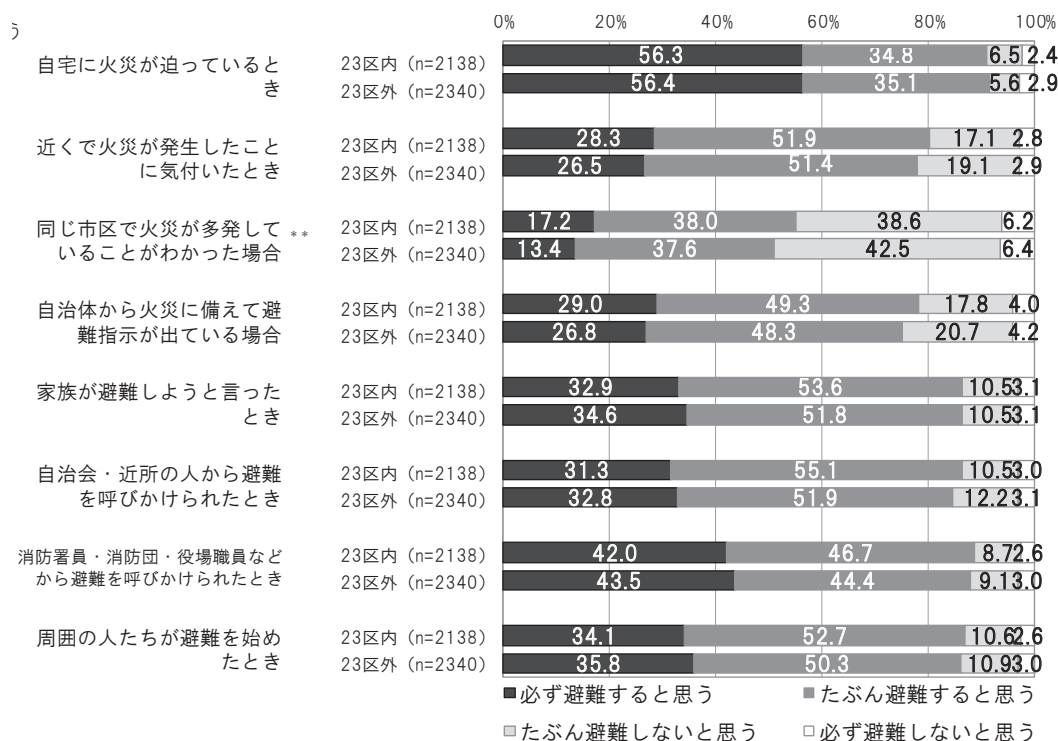


図 4.20 避難行動の意図

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$)

最後に、様々な状況を想定してもらったうえで、避難の意図について問うた。その結果の一覧が図 4.20 である。「自宅に火災が迫っているとき」に「必ず避難する」「たぶん避難する」と考えている人が最も多く、9 割以上であった。次いで、「消防署員・消防団・役場職員などから避難を呼びかけられたとき」に「必ず避難する」「たぶん避難する」と考えている人も同様に 9 割以上、「家族が避難しようと言ったとき」に「必ず避難する」「たぶん避難する」と考えている人が 8 割以上と、他者の呼びかけやリスク認知が重要である。こうした結果は、実際の水害時の避難行動と整合する（安本ほか，2020 など）。ただし、「自宅に火災が迫っている」ということは風向きなどによっては、それを認知した時点では火に囲まれており、手遅れになる可能性もあり、今後、どのように、火災からの避難対策を進めるのか検討が必要であろう。

4.5 長期避難・広域避難

次に、被災後の避難生活についてである。

家が住めない状態になったときの長期的な避難先を問うた結果が図 4.21 である。約半数が近所の避難所と回答した。この割合は特に 23 区外に多い。23 区内外で有意な差がみられた ($\chi^2(2)=87.661$, $p<.001$)。また、東京都以外に避難すると回答した人も 2 割程度存在した。

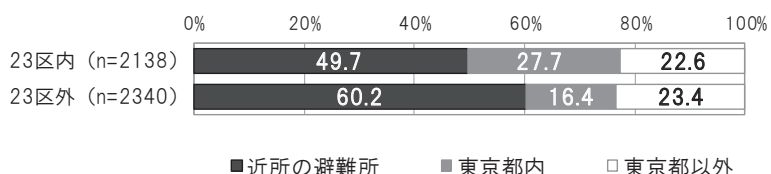


図 4.21 家が住めない状態になった場合の避難先 (χ^2 検定, $p<.001$)

では、こうした人は具体的な避難先としてどこを考えているのか、複数回答で問うた結果が図 4.22 である。多くの人が「祖父母、父母、子どもなどの家」「親戚の家」といった血縁関係のある家族の家と答えていた。特に、「祖父母、父母、子どもなどの家」と回答した人は 23 区内で 57.6%と多く、23 区外 (46.0%) との間で有意な差がみられた ($\chi^2(1)=13.761$, $p<.001$)。一方で、23 区外で目立つのは、「わからない」と回答した人の多さである。23 区内外で有意な差がみられた ($\chi^2(1)=17.337$, $p<.001$)。全体として、自治体頼みというよりかは、血縁などを頼ろうとする傾向がみえる。

また、その避難先について具体的に道府県レベルで問うた結果が表 4.1 である。「祖父母、父母、子どもなどの家」などと回答した人に対して、それがどこの道府県かを問い、その結果を道府県ごとで集計しなおした。ここでは、先の設問で「わからない」と回答した人は除いた。基本的に、東京近郊が多く、東日本への移動が多い。関西より西への避難はあまりみられなかった。

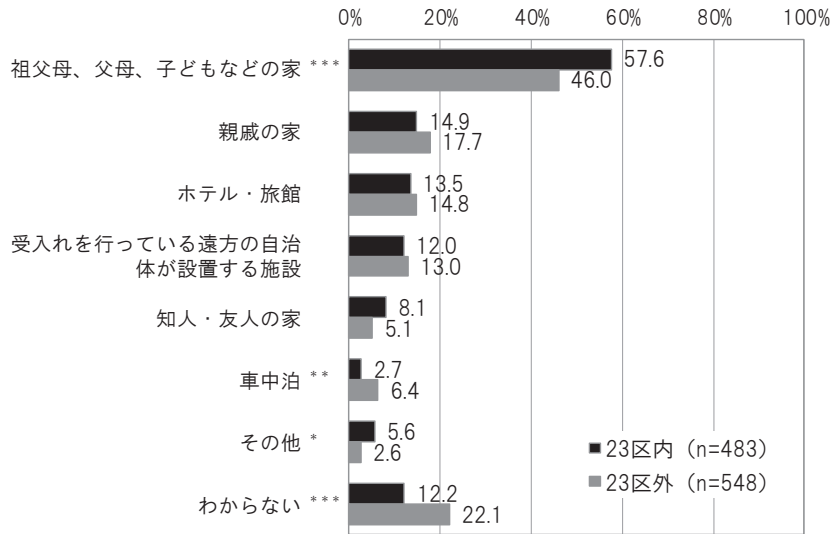


図 4.22 具体的な避難先 (MA) (広域避難者のみ)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

表 4.1 避難先の道府県 (具体的な避難先ごとに SA、広域避難者のみ)

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
23区内 (n=424)	6.4%	2.8%	2.1%	2.4%	2.6%	2.6%	2.6%	5.7%
23区外 (n=427)	4.7%	2.6%	1.6%	2.3%	1.9%	1.4%	4.9%	4.0%
	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	神奈川県	新潟県	富山県	石川県
23区内 (n=424)	5.4%	3.5%	9.4%	10.6%	5.2%	5.0%	2.1%	2.4%
23区外 (n=427)	3.0%	4.0%	11.5%	8.7%	9.4%	5.2%	0.7%	1.4%
	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県
23区内 (n=424)	0.7%	0.7%	5.2%	0.9%	1.4%	5.0%	1.2%	0.2%
23区外 (n=427)	0.5%	2.3%	7.3%	0.5%	2.8%	3.5%	0.9%	0.2%
	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県
23区内 (n=424)	2.1%	6.6%	5.7%	0.9%	0.7%	0.7%	0.2%	1.9%
23区外 (n=427)	1.4%	4.7%	3.3%	0.7%	0.9%	0.7%	0.2%	0.7%
	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県
23区内 (n=424)	2.1%	0.5%	0.2%	0.7%	0.7%	0.2%	2.8%	0.2%
23区外 (n=427)	1.9%	1.2%	0.9%	0.7%	0.2%	0.2%	3.0%	0.7%
	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	わからない	
23区内 (n=424)	0.7%	0.7%	0.7%	0.2%	0.5%	0.9%	9.0%	
23区外 (n=427)	1.2%	0.5%	0.9%	0.7%	0.9%	0.2%	9.4%	

また、その交通手段について複数回答で問うた結果が図 4.23 である。ここでも、先の設問で具体的な避難先について「わからない」と回答した人（図 4.22 参照）は除いた。結果、23 区内は鉄道を利用する割合が高いのに対して、23 区外は自家用車を利用する割合が高かった。こうした人々による渋滞も当然、懸念される。

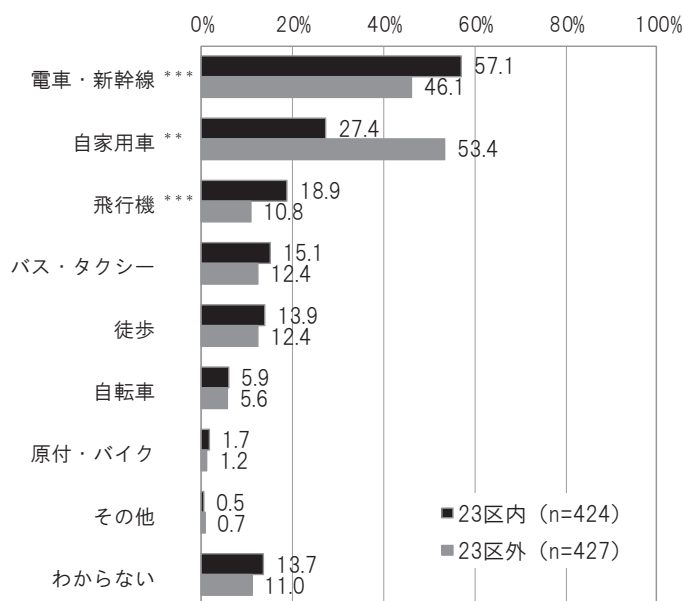


図 4.23 避難先までの交通手段 (MA) (広域避難先として具体的な避難先を答えた人のみ) (χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$)

さらに、家が住めない状態になったときの長期的な避難先として近所の避難所や東京都内、と回答したような人に対して（図 4.21 参照）、都内に食料などが物資が入らなくなった場合、具体的にどこに避難するかを複数回答で問うた結果が図 4.24 である。先ほどとは異なり「受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設」が最も多かった（23 区内で 28.8%、23 区外で 30.8%）。こちらは自治体頼みの現状が見受けられる。

また、先と同様に、その避難先について具体的に道府県レベルで問うた結果が表 4.2 である。「祖父母、父母、子どもなどの家」などと回答した人に対して、それがどこの道府県かを問い、その結果を道府県ごとで集計しなおした。ここでは、先の設問で「わからない」と回答した人は除いた。基本的に、東京近郊が多く、東日本への移動が多い。関西より西への避難はあまりみられなかった。

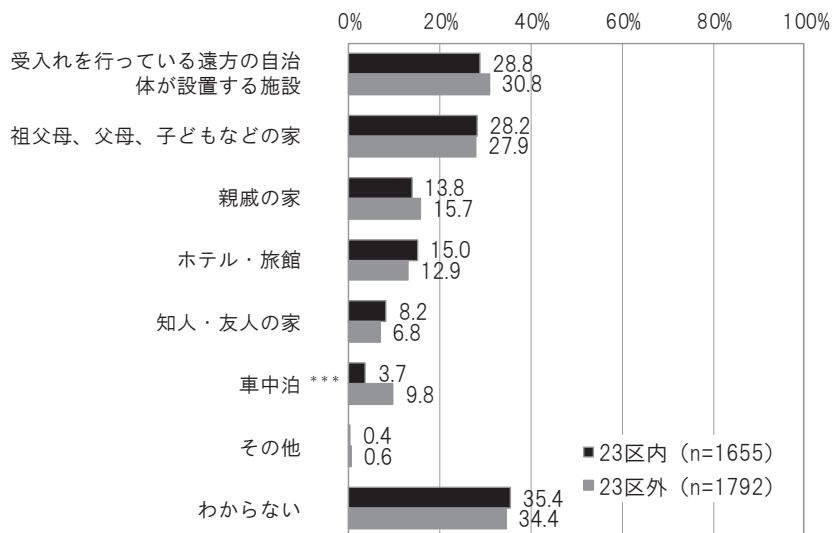


図 4.24 都内に物資が入らなくなった場合の避難先 (MA) (東京都内で避難生活を送ると回答した人のみ) (χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$)

そして、その交通手段について複数回答で問うた結果が図 4.25 である。ここでも、先の設問で具体的な避難先について「わからない」と回答した人 (図 4.24 参照) は除いた。結果、徒歩という回答が最も多かった。物資が入らないということは、道路が使えない可能性が大きいと考えられ、都内で物資がある場所を探し求めて避難行動を続けると考えられる。また、それ以外については先 (図 4.23) と同様に、23 区内は鉄道を利用する割合が高いのに対して、23 区外は自家用車を利用する割合が高かった。こうした人々による渋滞も当然、懸念されよう。

表 4.2 避難先の道府県

(具体的な避難先ごとに SA、東京都内で避難生活を送ると回答した人のみ)

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県
23区内 (n=1069)	2.1%	0.7%	1.0%	2.5%	0.5%	2.0%	2.8%	3.6%
23区外 (n=1175)	3.2%	1.6%	1.6%	2.0%	1.9%	1.5%	3.9%	3.1%
	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
23区内 (n=1069)	6.0%	4.1%	10.1%	26.3%	46.6%	5.3%	1.6%	0.3%
23区外 (n=1175)	12.2%	3.6%	9.4%	18.0%	48.3%	4.9%	2.0%	1.2%
	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
23区内 (n=1069)	2.8%	6.1%	1.0%	1.5%	1.1%	1.6%	2.2%	0.7%
23区外 (n=1175)	3.2%	15.9%	1.6%	1.9%	0.6%	2.4%	2.4%	0.5%
	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
23区内 (n=1069)	0.5%	0.5%	1.3%	1.8%	0.3%	0.2%	0.6%	5.2%
23区外 (n=1175)	0.9%	0.7%	2.7%	1.3%	0.7%	0.5%	0.4%	5.2%
	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
23区内 (n=1069)	37.0%	0.5%	11.0%	44.7%	0.2%	0.6%	0.7%	0.1%
23区外 (n=1175)	31.1%	0.3%	11.1%	47.1%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%
	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	わからない
23区内 (n=1069)	0.2%	0.0%	0.4%	21.5%	0.4%	0.1%	0.1%	43.6%
23区外 (n=1175)	0.4%	0.3%	0.4%	24.2%	0.1%	0.1%	0.1%	42.6%

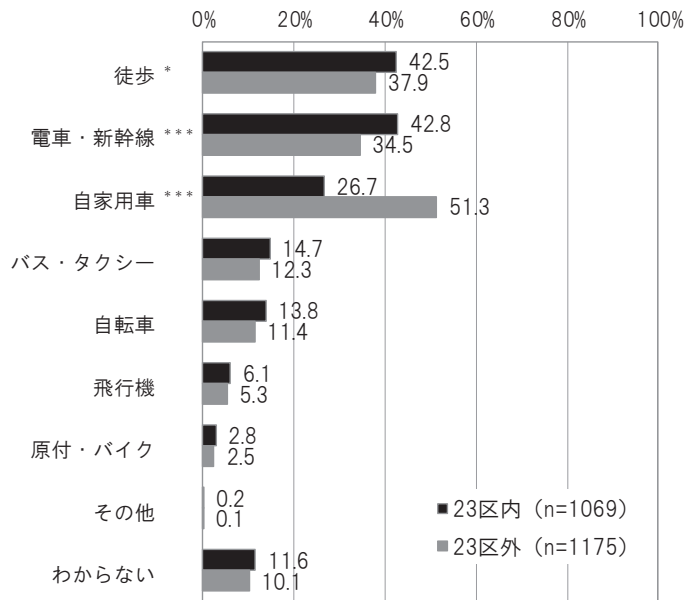


図 4.25 避難先までの交通手段 (MA) (東京都内で避難生活を送ると回答した人のみ)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$)

4.6 勤務先の被害

最後に、都民の考える被害想定として、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生した場合の勤務先の被害イメージ結果のイメージについて問うた。なおここでは、通勤・通学先が23区内か23区外かで分析を行う。両者のサンプルサイズが大きく異なるため、 χ^2 検定の結果は参考値として記しておく。

第一に通勤・通学先の揺れによる被害である。その結果が図4.26であるが、自宅の被害イメージと比較しても（図4.5）、「わからない」と回答する人が多かった。

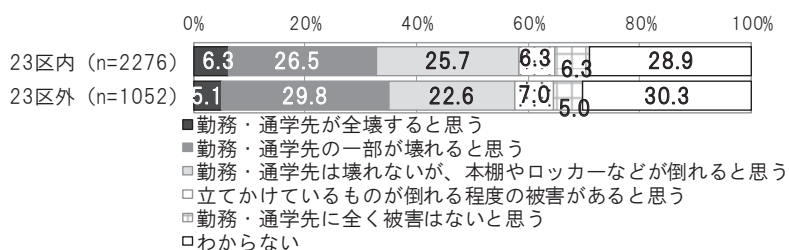


図 4.26 地震の揺れで自宅が受ける被害のイメージ（参考としての χ^2 検定, n. s.）
（通勤・通学している人のみ）

第二に通勤・通学先の津波による被害である。その結果が図4.27であるが、自宅の被害イメージと比較しても（図4.6）、先と同様に「わからない」と回答する人が多かった。

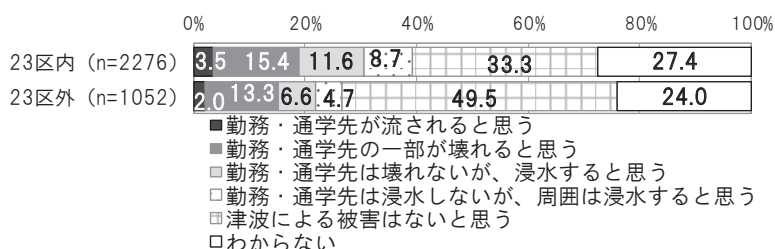


図 4.27 地震後の津波で通勤・通学先が受ける被害のイメージ
（参考としての χ^2 検定, $p < .001$ ）（通勤・通学している人のみ）

第三に通勤・通学先の火災による被害である。その結果が図4.28であるが、自宅の被害イメージと比較しても（図4.7）、先と同様に「わからない」と回答する人が多かった。一般的に、オフィス街とされる千代田区や中央区などは地区内残留地区とされ、火災による被害はあまり想定されていないが、その認識はあまり進んでいないと考えられる。逆に言えば、こうした複雑な状況こそが首都直下地震をめぐる情報、避難の難しさともいえる。

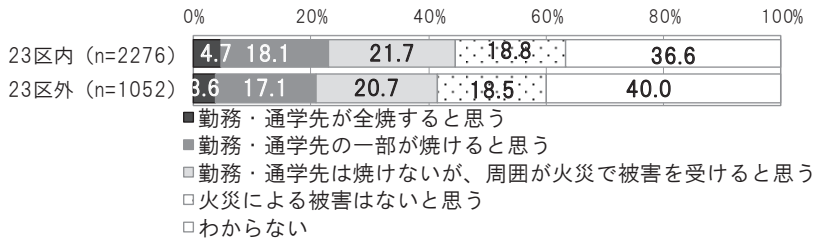


図 4.28 地震後の火災で通勤・通学先が受ける被害のイメージ
 (参考としての χ^2 検定, n. s.) (通勤・通学している人のみ)

第四に、通勤・通学先がどの程度で事業・授業を再開できると思うかを問うた結果が図 4.29 である。事業災害出来ないほどの被害になるとはほとんど考えられていないが、その期間がどの程度になるのか、そのイメージは人によってさまざまであることがわかる。もちろん、わからない人が一番多いことからみても、そのイメージがいかに難しいかがわかる。

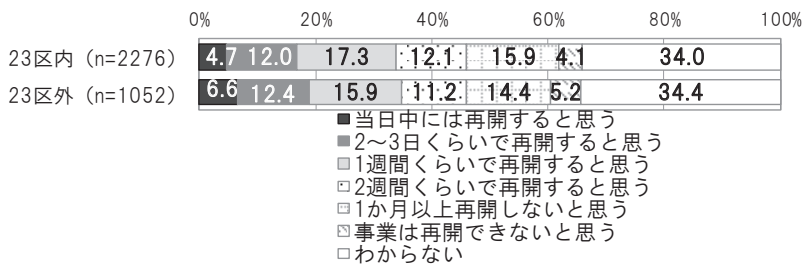


図 4.29 地震後の通勤・通学先の活動再開タイミングのイメージ
 (参考としての χ^2 検定, n. s.) (通勤・通学している人のみ)

5. 地震対策の現状

本章では、都民の地震対策の現状とその対策への評価について述べる。

5.1 地震対策の有無

まず、実施している地震対策について複数回答で問うた。ここでは、『東京防災』や Spittal (2006)などを基に、重要と考えられる 16 項目について、行っているかを問うた。具体的に、「家具の転倒防止」「パソコンやテレビなどの滑り止め」「家具の配置の工夫」「ガラスの飛散防止」「消火器の準備」「食器棚に掛け金をかけるなど、飛び出し防止」「地震保険への加入」という 7 個と、「火災から逃れるための広域避難場所の確認」「避難生活を送るための避難所の確認」「水の備蓄」「食料の備蓄」「非常用持ち出し袋の準備」「懐中電灯の準備」「乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備」「ラジオの準備」

備「カセットコンロの準備」という対策9個であり、これらを2つの設問に分けて問うた。前者は対策として行うのに比較的手間がかかり、後者は比較的にすぐできる内容である。その結果が図5.1ならびに図5.2である。

全体として最も多く行われていたのは、水の備蓄や食料の備蓄であった。一部の項目については、有意に23区外が多く対策を実施していた（たとえば懐中電灯の準備については23区外の居住者の方が有意に多く準備をしている（ $\chi^2(1)=10.890$ 、 $p<.001$ ）。23区に居住しているから地震対策が十分に行われているわけではないことが明らかである。

また、揺れに対する対策はそれなりに行われている一方で、火災による被害対策としての、火災から逃れるための広域避難場所の確認などはあまり行われていなかった。

さらに、食料の備蓄に関して、備蓄状況を普段から確認しているかを問うた結果が図5.3である。ここでは、食料の備蓄をしている、と回答した人（図5.2参照）についてのみ問うたのであるが、食料を備蓄している人のほとんどが一年以内に確認していた。

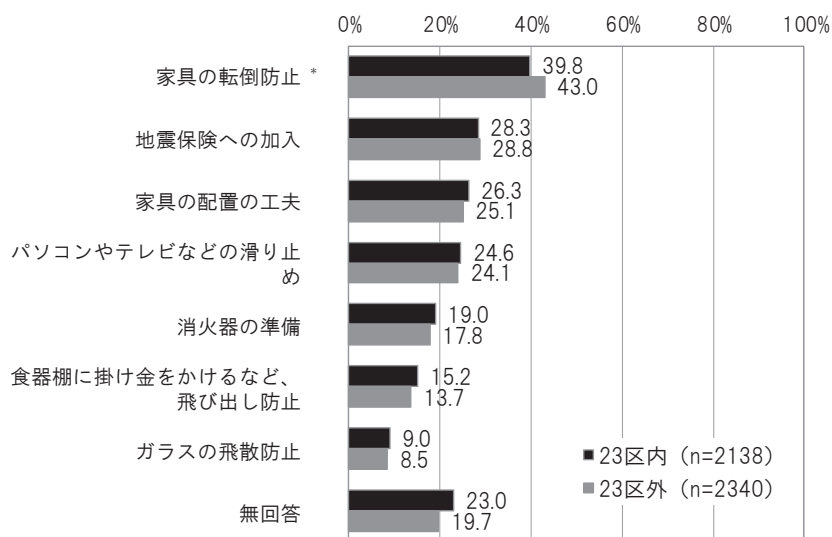


図 5.1 地震対策の実施状況

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし、*: $p<.05$ 、**: $p<.01$ 、***: $p<.001$)

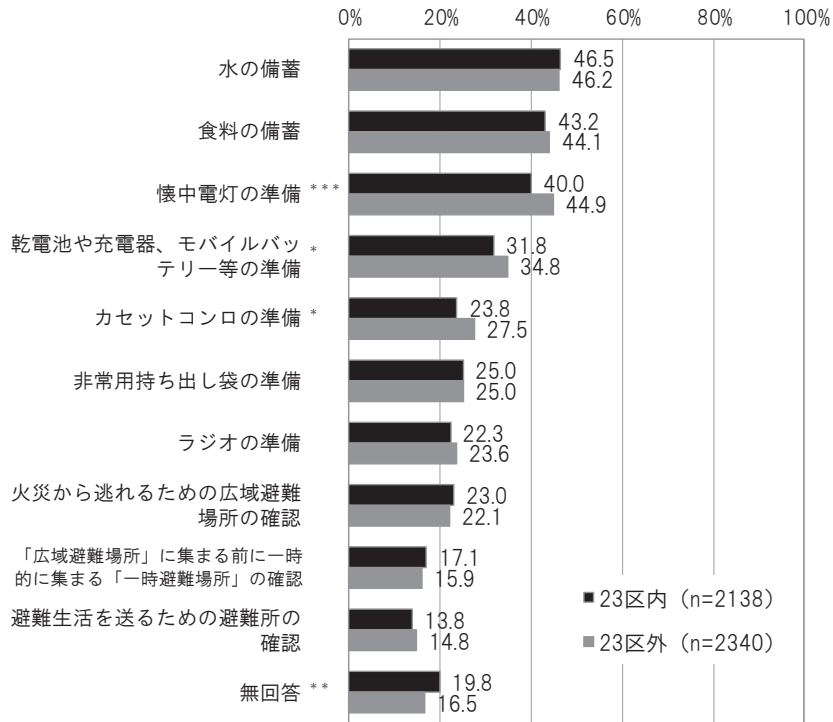


図 5.2 地震対策の実施状況（比較的容易にできるもの）
 （ χ^2 検定，無印：有意差なし、*： $p<.05$ 、**： $p<.01$ 、***： $p<.001$ ）

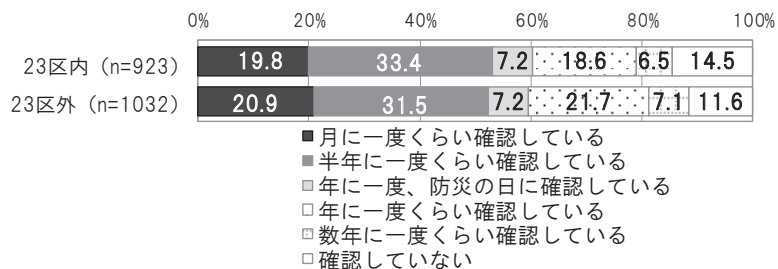


図 5.3 食料の備蓄状況の確認頻度（ χ^2 検定，n. s.）

また、外出先などで地震にあう可能性もあるが、その時に同居家族との安否確認方法を決めているかを問うた結果が図 5.4 である。全体として、2 割程度しか事前に決めている家庭はなかった。

その確認手段としては、最も多いのが普段から用いているからであろう「LINE や Twitter などのソーシャルメディアを使う」と回答する人が 5 割以上と多かった。それ以外にも「Google パーソンファインダーや各通信事業者が提供する災害用伝言版サービスなどを

使う」と回答した人も4割以上と多かった（図5.5）。

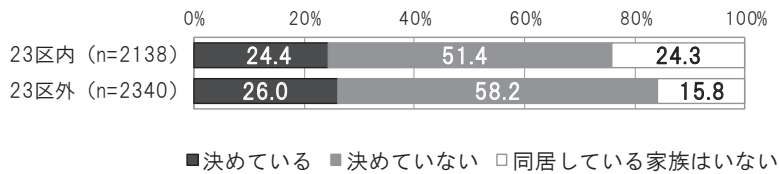


図 5.4 同居家族との安否確認方法 (χ^2 検定, $p < .001$)

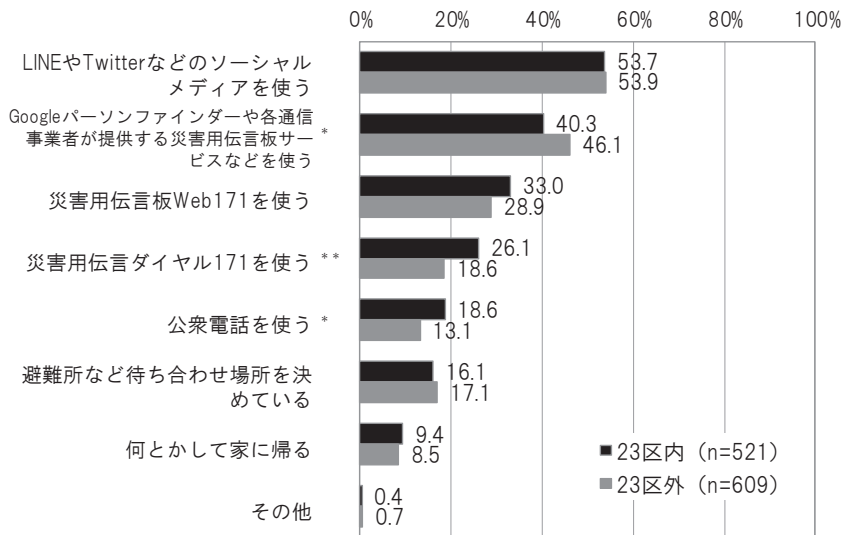


図 5.5 同居家族との安否確認手段 (MA、安否確認方法を決めていると回答した人のみ)

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

5.2 地震対策への評価

では、図 5.1 や図 5.2 で述べたような地震対策に対してどのような評価を行っているのか。16 個の地震対策それぞれについての有効性、実現可能性、心理的コストについてそれぞれ 4 点尺度で問うた結果がそれぞれ、図 5.6、図 5.7、図 5.8 である。

有効性も一定程度認識しており、出来るかと聞かれればできる、と回答するが、地震対策を行う上で心理的コストは一定程度、存在する。特に、対策の実施に時間や労力が必要なこと（上から 7 つ）は「面倒だと思う」「どちらかといえば面倒だと思う」と回答する割合が概ね 6 割を超えるなど、心理的コストが大きかった。

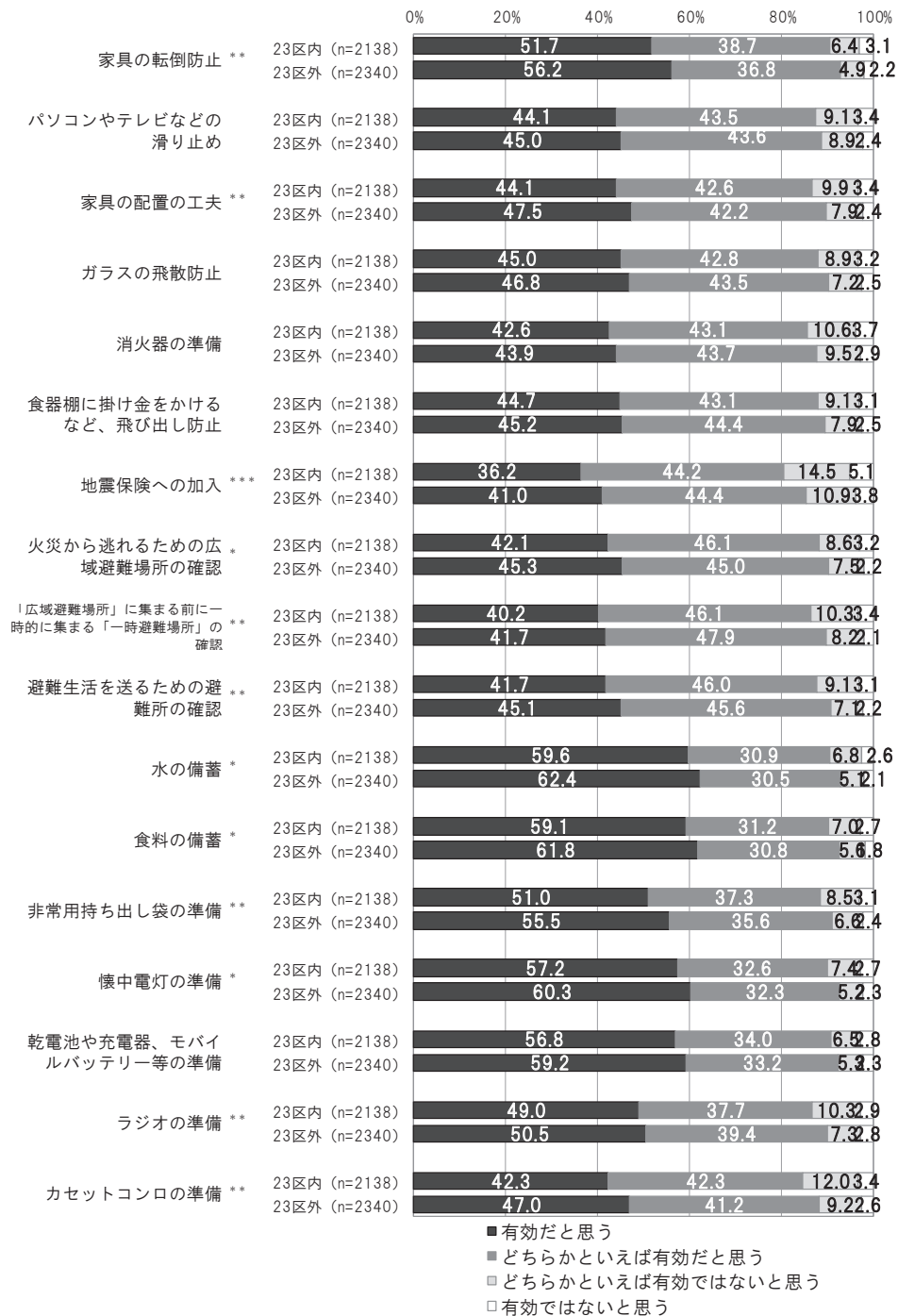


図 5.6 地震対策として有効と思うか

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

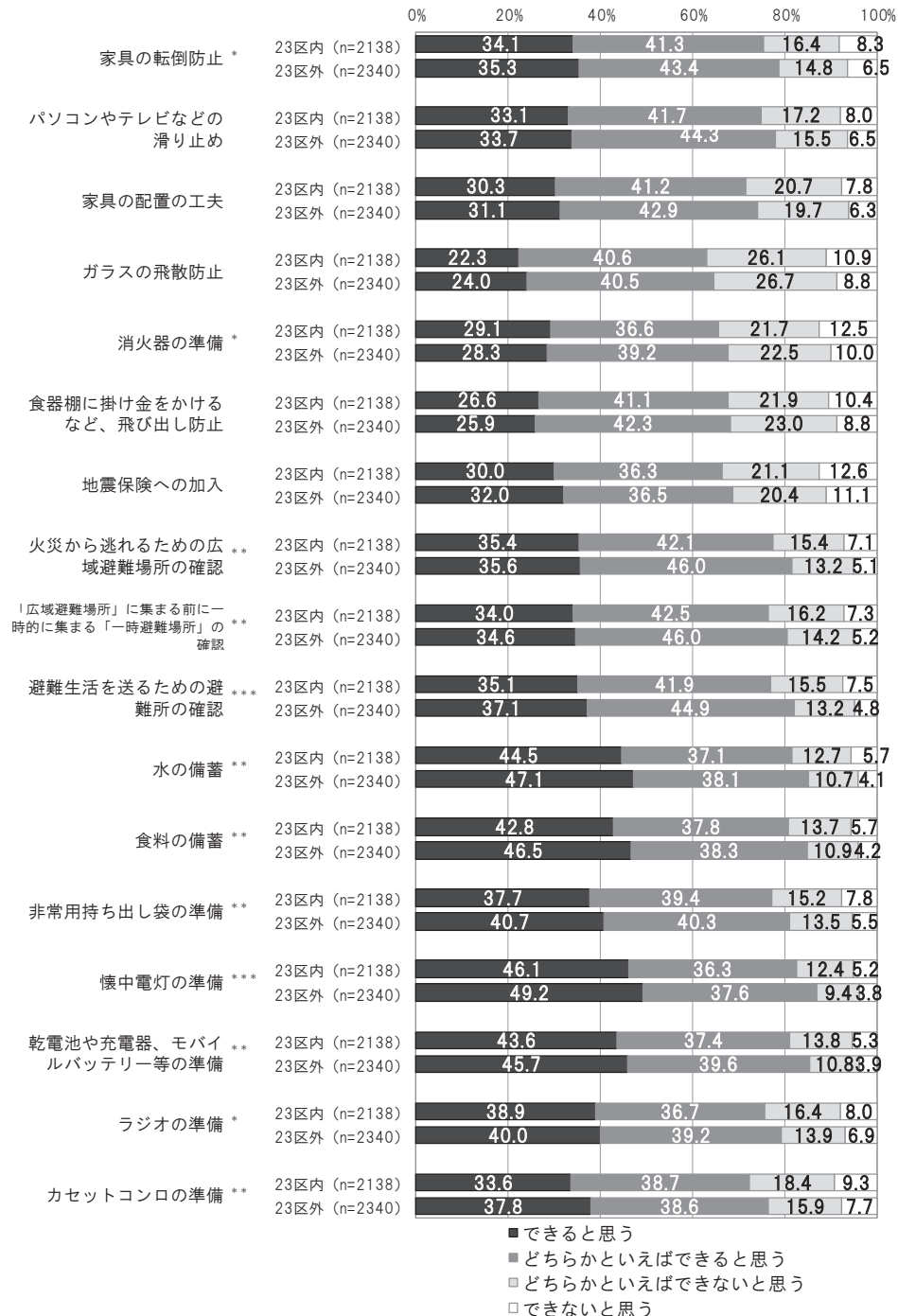


図 5.7 地震対策として出来るか

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

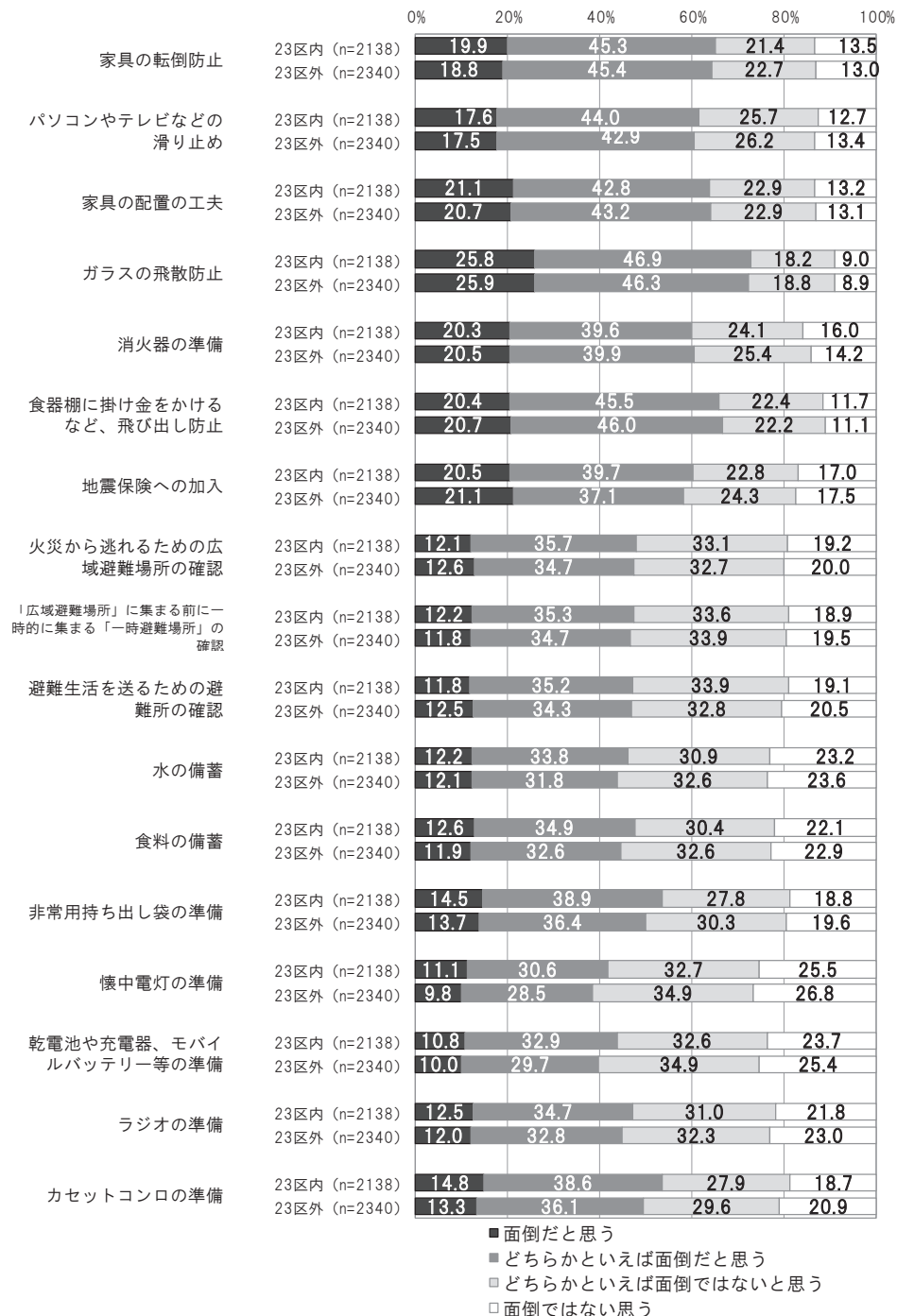


図 5.8 地震対策として面倒か

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

5.3 地震対策のきっかけ

最後に、こうした地震対策を行うきっかけを複数回答で問うた。その結果が図 5.9 である。最も多いのが、「東日本大震災や熊本地震などの被災地の様子をテレビなどで見たこと」であり、全体の 5 割であった。次いで、「実際に大きな地震を経験したこと」で約 3 割、「防災に関するテレビ番組を見たこと」が約 3 割弱で続く。こうした結果からみてもわかるように、あまり日常的な会話などではなく、基本は直接経験か、マスメディアなどをした情報入手などを契機として防災対策を行っているという現状が明らかである。

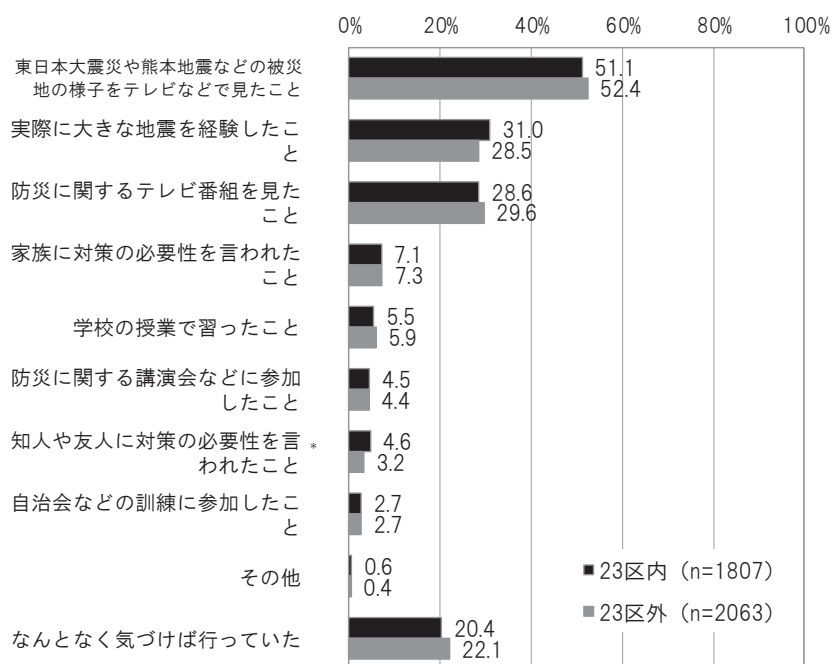


図 5.9 地震対策のきっかけ

(χ^2 検定, 無印: 有意差なし, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$)

6. まとめ

以上のように、23 区内外の住民の首都直下地震や地震防災についての認知体系が異なることはほとんどみられなかった。そもそも被害想定を多くの人が認知していなかったことや首都直下地震の情報にメディアを介して接触した人が少ないことがあげられよう。特に、揺れで自宅が受ける被害についてはある程度イメージが出来る人が多いが、火災に関しては「わからない」と回答した人が多かったことは、首都直下地震の防災を考えるうえで課題であろう。また、インフラの被害がどの程度続くか、という点についても多くの人が被害のイメージをもっていないことが明らかとなった。そのことは実際に災害が発生した際

に混乱が生じる一因となるであろう。

ただし、被害想定の詳細な知識が、具体的な地震対策につながるかはまた、別の問題である。特に、対策として安否確認の方法を決めていない人が多いこと、火災に関する避難方法の理解が進んでいないことなどは課題としてあげられる。地震に関する情報は、「家の耐震診断をしましょう」や「家具固定をしましょう」といった啓発が中心である。これらが大切なことは言うまでもないが、事前対策の啓発以外の首都直下地震に関する防災情報のあり方を考える必要があるだろう。

引用・参考文献

地震調査研究推進本部（地震調査委員会），2015，関東地域の活断層の長期評価（第一版）

内閣府（首都直下地震モデル検討会），2013a，首都直下のM7クラスの地震及び相模トラフ沿いのM8クラスの地震等の震源断層モデルと震度分布・津波高等に関する報告書

内閣府（首都直下地震モデル検討会），2013b，首都直下のM7クラスの地震及び相模トラフ沿いのM8クラスの地震等の震源断層モデルと震度分布・津波高等に関する報告書
図表集

内閣府，2014，平成26年版防災白書

Spittal, M.J., Walkey, F.H., McClure, J., Siegert, R.J., and Ballantyne, K.: The Earthquake Readiness Scale: The development of a valid and reliable unifactorial measure, *Natural Hazards*, 39, pp. 15-29, 2006.

東京都防災会議，2022，首都直下地震等による東京の被害想定報告書

安本真也・横田崇・牛山素行・石黒聡士・関谷直也，2020，平成30年7月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造，*自然災害科学* vol.39，特別号，pp. 71-85.

附属資料（アンケート調査の単純集計）

(SA)【調査1】F1. 性別

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	男性	49.0
2	女性	51.0

(SA)【調査1】OF2. 年代

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	10代	0.0
2	20代	15.2
3	30代	20.1
4	40代	21.6
5	50代	21.9
6	60代	21.2
7	70代以上	0.0

(SA)【調査1】SC1. あなたのお住まいの都道府県をお答えください。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	東京都	100.0
2	それ以外	0.0

(SA)【調査1】SC2. あなたのお住まいの市区町村をお答えください。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	千代田区	1.9
2	中央区	2.0
3	港区	2.1
4	新宿区	2.2
5	文京区	2.0
6	台東区	1.9
7	墨田区	2.0
8	江東区	2.1
9	品川区	2.2
10	目黒区	2.1
11	大田区	2.1
12	世田谷区	2.2
13	渋谷区	2.1
14	中野区	2.0
15	杉並区	2.1
16	豊島区	2.1
17	北区	2.1
18	荒川区	2.0
19	板橋区	2.2
20	練馬区	2.1
21	足立区	2.2
22	葛飾区	2.0
23	江戸川区	2.2
24	八王子市	2.2
25	立川市	2.1
26	武蔵野市	2.1
27	三鷹市	1.9
28	青梅市	2.0
29	府中市	2.1
30	昭島市	1.9
31	調布市	2.1
32	町田市	2.0
33	小金井市	1.9
34	小平市	2.0

35	日野市	2.1
36	東村山市	2.1
37	国分寺市	2.1
38	国立市	1.9
39	福生市	1.7
40	狛江市	1.9
41	東大和市	2.0
42	清瀬市	1.9
43	東久留米市	2.1
44	武蔵村山市	1.7
45	多摩市	2.0
46	稲城市	1.9
47	羽村市	1.5
48	あきる野市	1.8
49	西東京市	2.1
50	瑞穂町	0.7
51	日の出町	0.4
52	檜原村	0.0
53	奥多摩町	0.1
54	大島町	0.0
55	利島村	0.0
56	新島村	0.0
57	神津島村	0.0
58	三宅村	0.0
59	御蔵島村	0.0
60	八丈町	0.0
61	青ヶ島村	0.0
62	小笠原村	0.0

(SA) 【調査1】 SC3. あなたが主に通勤・通学している市区町村をお答えください

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	千代田区	7.3
2	中央区	4.1
3	港区	6.4
4	新宿区	6.2
5	文京区	1.6
6	台東区	1.5
7	墨田区	1.0
8	江東区	2.1
9	品川区	2.6
10	目黒区	1.2
11	大田区	1.5
12	世田谷区	1.7
13	渋谷区	3.3
14	中野区	1.3
15	杉並区	1.5
16	豊島区	1.9
17	北区	0.9
18	荒川区	0.7
19	板橋区	0.8
20	練馬区	1.0
21	足立区	0.7
22	葛飾区	0.7
23	江戸川区	1.0
24	八王子市	1.7
25	立川市	1.9
26	武蔵野市	1.2
27	三鷹市	0.8
28	青梅市	1.2

29	府中市	1.3
30	昭島市	1.1
31	調布市	1.2
32	町田市	0.8
33	小金井市	0.6
34	小平市	0.8
35	日野市	0.9
36	東村山市	0.7
37	国分寺市	0.6
38	国立市	0.6
39	福生市	0.7
40	狛江市	0.5
41	東大和市	0.7
42	清瀬市	0.6
43	東久留米市	0.6
44	武蔵村山市	0.8
45	多摩市	0.9
46	稲城市	0.6
47	羽村市	0.9
48	あきる野市	0.6
49	西東京市	0.7
50	瑞穂町	0.4
51	日の出町	0.2
52	檜原村	0.0
53	奥多摩町	0.1
54	大島町	0.0
55	利島村	0.0
56	新島村	0.0
57	神津島村	0.0
58	三宅村	0.0
59	御蔵島村	0.0
60	八丈町	0.0
61	青ヶ島村	0.0
62	小笠原村	0.0
63	東京都以外	4.0
64	通勤も通学もしていない	21.7

(SA) 【調査1】 Q7. あなたは、以下の災害について関心がありますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	
【調査1】 Q7項目	首都直下地震 (n=4478)	%	100.0	43.5	37.7	10.9	7.9
【調査1】 Q7項目	南海トラフ地震 (n=4478)	%	100.0	29.3	41.1	19.5	10.2
【調査1】 Q7項目	その他の地域で発生する地震 (n=4478)	%	100.0	20.6	45.3	23.1	11.0
【調査1】 Q7項目	津波 (n=4478)	%	100.0	17.2	35.8	31.1	15.9
【調査1】 Q7項目	富士山の噴火 (n=4478)	%	100.0	26.1	40.4	22.0	11.5
【調査1】 Q7項目	富士山の噴火による大規模降灰 (n=4478)	%	100.0	26.8	40.3	21.5	11.4
【調査1】 Q7項目	富士山以外の火山の噴火 (n=4478)	%	100.0	16.1	37.9	32.1	13.8
【調査1】 Q7項目	河川の大規模なはん濫 (荒川や多摩川など) (n=4478)	%	100.0	22.6	40.3	24.5	12.6
【調査1】 Q7項目	土砂災害 (がけ崩れや地すべりなど) (n=4478)	%	100.0	15.5	36.4	33.2	14.9
【調査1】 Q7項目	台風 (n=4478)	%	100.0	31.8	44.7	15.2	8.3

(SA) 【調査1】 Q8. あなたは、以下の災害について不安を感じていますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	不安を感じている	やや不安を感じている	あまり不安を感じていない	不安を感じていない	
【調査1】 Q8項目	首都直下地震 (n=4478)	%	100.0	44.7	38.9	10.8	5.6
【調査1】 Q8項目	南海トラフ地震 (n=4478)	%	100.0	30.1	40.2	21.4	8.2
【調査1】 Q8項目	その他の地域で発生する地震 (n=4478)	%	100.0	22.5	42.8	26.0	8.7
【調査1】 Q8項目	津波 (n=4478)	%	100.0	14.5	29.0	36.9	19.7
【調査1】 Q8項目	富士山の噴火 (n=4478)	%	100.0	24.0	38.3	27.1	10.7
【調査1】 Q8項目	富士山の噴火による大規模降灰 (n=4478)	%	100.0	25.2	39.8	24.8	10.3
【調査1】 Q8項目	富士山以外の火山の噴火 (n=4478)	%	100.0	15.6	34.1	36.2	14.2
【調査1】 Q8項目	河川の大規模なはん濫 (荒川や多摩川など) (n=4478)	%	100.0	20.9	36.0	30.4	12.8
【調査1】 Q8項目	土砂災害 (がけ崩れや地すべりなど) (n=4478)	%	100.0	14.9	31.1	37.4	16.6
【調査1】 Q8項目	台風 (n=4478)	%	100.0	29.3	43.7	19.4	7.6

(SA) 【調査1】 Q9. あなたは、以下の災害について対策の必要性を感じていますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	対策の必要性を感じている	やや対策の必要性を感じている	あまり対策の必要性を感じていない	対策の必要性を感じていない	
【調査1】 Q9項目	首都直下地震 (n=4478)	%	100.0	43.2	40.5	10.9	5.3
【調査1】 Q9項目	南海トラフ地震 (n=4478)	%	100.0	28.5	40.5	22.5	8.5
【調査1】 Q9項目	その他の地域で発生する地震 (n=4478)	%	100.0	21.7	41.7	27.0	9.6
【調査1】 Q9項目	津波 (n=4478)	%	100.0	16.0	29.1	35.5	19.4
【調査1】 Q9項目	富士山の噴火 (n=4478)	%	100.0	21.6	38.2	28.6	11.7
【調査1】 Q9項目	富士山の噴火による大規模降灰 (n=4478)	%	100.0	22.6	38.8	27.7	11.0
【調査1】 Q9項目	富士山以外の火山の噴火 (n=4478)	%	100.0	16.0	32.9	36.5	14.6
【調査1】 Q9項目	河川の大規模なはん濫 (荒川や多摩川など) (n=4478)	%	100.0	21.7	36.4	28.4	13.5
【調査1】 Q9項目	土砂災害 (がけ崩れや地すべりなど) (n=4478)	%	100.0	16.3	32.4	35.1	16.2
【調査1】 Q9項目	台風 (n=4478)	%	100.0	29.3	44.7	18.6	7.4

(SA) 【調査1】 Q10. あなたは、以下の災害について、テレビのニュースや新聞の報道で目にしますか。あてはまるものを、それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	目にする	やや目にする	あまり目に見えない	目に見えない	
【調査1】 Q10項目	首都直下地震 (n=4478)	%	100.0	23.6	42.8	24.1	9.5
【調査1】 Q10項目	南海トラフ地震 (n=4478)	%	100.0	20.8	42.0	26.2	11.1
【調査1】 Q10項目	その他の地域で発生する地震 (n=4478)	%	100.0	16.1	40.1	32.2	11.6
【調査1】 Q10項目	津波 (n=4478)	%	100.0	15.9	41.0	31.8	11.3
【調査1】 Q10項目	富士山の噴火 (n=4478)	%	100.0	11.2	30.6	39.5	18.7
【調査1】 Q10項目	富士山の噴火による大規模降灰 (n=4478)	%	100.0	11.2	28.5	40.7	19.6
【調査1】 Q10項目	富士山以外の火山の噴火 (n=4478)	%	100.0	11.3	32.2	39.3	17.2
【調査1】 Q10項目	河川の大規模なはん濫 (荒川や多摩川など) (n=4478)	%	100.0	14.9	40.4	32.7	12.1
【調査1】 Q10項目	土砂災害 (がけ崩れや地すべりなど) (n=4478)	%	100.0	15.1	41.9	31.3	11.7
【調査1】 Q10項目	台風 (n=4478)	%	100.0	25.8	46.1	19.9	8.2
【調査1】 Q10項目	高潮 (n=4478)	%	100.0	10.0	31.2	41.3	17.5

(SA) 【調査1】 Q42. あなたが生きている間に、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生すると思いますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	発生すると思う	24.7
2	発生する可能性が高いと思う	51.4
3	発生する可能性は低いと思う	15.7
4	発生しないと思う	8.2

(SA) 【調査1】 Q43. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度程度の地震が発生したときに、揺れによって自宅が被害を受けるとと思いますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	自宅が全壊すると思う	9.8
2	自宅の一部が壊れると思う	33.1
3	自宅は壊れないが、家財道具などが倒れると思う	32.6
4	立てかけているものが倒れる程度の被害があると思う	6.9
5	自宅に全く被害はないと思う	3.6
6	わからない	14.0

(SA) 【調査1】 Q44. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、津波によって自宅が被害を受けるとと思いますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	自宅が流されると思う	2.6
2	自宅の一部が壊れると思う	11.6
3	自宅は壊れないが、浸水すると思う	8.5
4	自宅は浸水しないが、周囲は浸水すると思う	8.4
5	津波による被害はないと思う	54.2
6	わからない	14.7

(SA) 【調査1】 Q45. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、地震の火災によって自宅が被害を受けるとと思いますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	自宅が全焼すると思う	6.6
2	自宅の一部が焼けると思う	15.8
3	自宅は焼けないが、周囲が火災で被害を受けると思う	29.2
4	火災による被害はないと思う	15.8
5	わからない	32.6

(SA) 【調査1】 Q46. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、すぐに避難場所まで行けるとと思いますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	すぐに避難場所まで行けると思う	22.5
2	すぐに避難場所まで行けないと思う	35.6
3	すぐに避難場所に行く必要はないと思う	16.8
4	わからない	25.1

(SA) 【調査1】 Q47. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したとき、自宅周辺の電気・ガス・水道・道路・交通機関などの被害はどのくらいの間、続くと思いますか。

		全体	被害はないと思う	当日中には復旧すると思う	2~3日くらいで復旧すると思う	1週間くらいで復旧すると思う	2週間くらいで復旧すると思う	1か月以上復旧できないと思う	わからない
【調査1】 Q47項目電気 (n=4478)	%	100.0	2.0	5.5	14.2	19.9	12.6	16.0	29.8
【調査1】 Q47項目水道 (n=4478)	%	100.0	1.9	4.9	13.2	19.5	12.1	18.5	29.9
【調査1】 Q47項目ガス (n=4478)	%	100.0	2.2	4.6	13.4	19.0	12.3	18.7	29.9
【調査1】 Q47項目通信・インターネット (n=4478)	%	100.0	2.6	5.8	16.2	18.6	11.9	14.1	30.8
【調査1】 Q47項目道路 (n=4478)	%	100.0	1.8	3.6	9.9	15.4	13.8	24.0	31.5
【調査1】 Q47項目鉄道 (n=4478)	%	100.0	1.4	3.5	10.3	15.6	12.4	24.4	32.4
【調査1】 Q47項目バス (n=4478)	%	100.0	1.5	3.3	11.2	16.6	13.1	21.7	32.5

(MA) 【調査1】 Q48. あなたは、自宅にいて地震が発生した後、周囲で火災が発生していることがわかった場合、どこに避難しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	広域避難場所	42.3
2	一時 (いっとき) 集合場所 / 一時 (いっとき) 避難場所	26.1
3	近くの頑丈な建物	10.7
4	避難所	24.1
5	その他	0.6
6	避難しない	9.0
7	わからない	21.7

(FA) 【調査1】 Q48_5FA. あなたは、自宅にいて地震が発生した後、周囲で火災が発生していることがわかった場合、どこに避難しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=28)		100.0
回答者数 (n=28)		100.0

(MA) 【調査1】 Q48a. そこに避難するのはなぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=3104)		100.0
1	火災から逃れるため	57.1
2	不安だから	33.1
3	避難生活を送るため	29.0
4	家族と待ち合わせるため	26.1
5	近所の人が集まってそうだから	12.2
6	水や食料を得るため	37.0
7	なんとなく	3.7
8	その他	0.6

(FA) 【調査1】 Q48a_8FA. そこに避難するのはなぜですか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=19)		100.0
回答者数 (n=19)		100.0

(SA) 【調査1】 Q49. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、揺れによって勤務・通学先が被害を受けるといいますか。

		%
全体 (n=3508)		100.0
1	勤務・通学先が全壊すると思う	5.8
2	勤務・通学先の一部が壊れると思う	27.9
3	勤務・通学先は壊れないが、本棚やロッカーなどが倒れると思う	24.6
4	立っているものが倒れる程度の被害があると思う	6.4
5	勤務・通学先に全く被害はないと思う	5.8
6	わからない	29.4

(SA) 【調査1】 Q50. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、津波によって勤務・通学先が被害を受けるといいますか。

		%
全体 (n=3508)		100.0
1	勤務・通学先が流されると思う	3.0
2	勤務・通学先の一部が壊れると思う	15.1
3	勤務・通学先は壊れないが、浸水すると思う	10.0
4	勤務・通学先は浸水しないが、周囲は浸水すると思う	7.4
5	津波による被害はないと思う	38.2
6	わからない	26.2

(SA) 【調査1】 Q51. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、地震による火災で勤務・通学先が被害を受けるといいますか。

		%
全体 (n=3508)		100.0
1	勤務・通学先が全焼すると思う	4.3
2	勤務・通学先の一部が焼けると思う	17.9
3	勤務・通学先は焼けないが、周囲が火災で被害を受けると思う	21.4
4	火災による被害はないと思う	18.9
5	わからない	37.5

(SA) 【調査1】 Q52. あなたは、首都圏でマグニチュード7程度の地震が発生したときに、勤務・通学先はどの程度の期間で事業を再開すると思いますか。

		%
全体 (n=3508)		100.0
1	当日中には再開すると思う	5.5
2	2~3日くらいで再開すると思う	12.1
3	1週間くらいで再開すると思う	17.0
4	2週間くらいで再開すると思う	12.0
5	1か月以上再開しないと思う	15.4
6	事業は再開できないと思う	4.4
7	わからない	33.6

(SA) 【調査1】 Q53. あなたが普段、よく出かける街なかで外出中、マグニチュード7程度の地震にあった場合、あなたはどのように行動すると思いますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	その場付近に留まる	48.7
2	帰宅する	51.3

(MA) 【調査1】 Q53a. それはなぜですか。あてはまるものをすべて選択してください。

		%
全体 (n=2179)		100.0
1	公共交通機関が止まっていると思うから	63.6
2	歩いて帰るのが無理だと思うから	37.4
3	家族とは安否確認方法や待ち合わせ場所を決めているから	7.0
4	むやみに動いた方が危険と思うから	59.8
5	むやみに移動しない方がよい、と聞いたことがあるから	29.2
6	街なかで混乱してそうだから	24.4
7	移動する人が多く、混雑していそうだから	28.8
8	どうしたらよいか分からなくなりそうだから	10.4
9	その他	0.5

(MA) 【調査1】 Q53b. それはなぜですか。あてはまるものをすべて選択してください。

	%
全体 (n=2299)	100.0
1 公共交通機関が動いている思うから	4.1
2 歩いて帰れると思うから	48.1
3 家族の安否が心配だから	41.0
4 外出先で不安だから	28.9
5 すぐに帰ったほうが良い、と聞いたことがあるから	4.1
6 街なかで混乱してそうだから	12.7
7 多くの人も移動していると思うから	6.5
8 どうしたらよいか分からなくなりそうだから	18.4
9 その他	2.1

(SA) 【調査1】 Q54. あなたが住む地域は、東京都の「あなたのまちの地域危険度」でのランクはいくつですか。それぞれについて、一つずつお答えください。

	全体	ランク1	ランク2	ランク3	ランク4	ランク5	ランクはわからないが危険度は低いと思う	ランクはわからないが危険度は高いと思う	ランクについてよくわからない	
【調査1】 Q54項目 建物倒壊危険度ランク (n=4478)	%	100.0	2.0	2.0	1.9	2.0	1.9	16.3	9.3	64.5
【調査1】 Q54項目 火災危険度ランク (n=4478)	%	100.0	1.5	2.1	2.2	2.3	2.0	14.8	10.3	64.8
【調査1】 Q54項目 災害時活動困難度ランク (n=4478)	%	100.0	1.5	2.0	2.0	2.4	2.0	15.8	8.5	65.9
【調査1】 Q54項目 総合危険度ランク (n=4478)	%	100.0	1.6	1.9	1.9	2.4	2.1	15.8	9.1	65.4

(SA) 【調査1】 Q55. あなたの通勤・通学先の地域は、東京都の「あなたのまちの地域危険度」でのランクはいくつですか。それぞれについて、一つずつお答えください。

	全体	ランク1	ランク2	ランク3	ランク4	ランク5	ランクはわからないが危険度は低いと思う	ランクはわからないが危険度は高いと思う	ランクについてよくわからない	
【調査1】 Q55項目 建物倒壊危険度ランク (n=3508)	%	100.0	1.8	1.9	2.1	2.5	2.1	13.7	10.5	65.3
【調査1】 Q55項目 火災危険度ランク (n=3508)	%	100.0	1.4	2.0	2.2	2.9	2.0	13.2	11.1	65.2
【調査1】 Q55項目 災害時活動困難度ランク (n=3508)	%	100.0	1.5	2.0	2.0	2.8	2.2	13.6	10.7	65.4
【調査1】 Q55項目 総合危険度ランク (n=3508)	%	100.0	1.5	1.7	1.7	3.2	2.4	13.7	10.5	65.4

(SA) 【調査1】 Q56. 首都直下地震については、東京都や内閣府が被害想定を出しています。あなたはこのことを知っていますか。

	%
全体 (n=4478)	100.0
1 想定の内容まで知っている	5.7
2 想定が出ていることは知っているが、内容はよくわからない	52.8
3 知らない	41.5

(SA) 【調査1】 Q57. 首都直下地震の被害想定について、あなたのお考えに最も近いものをそれぞれについて、一つずつお答えください。

	全体	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
【調査1】 Q57項目 被害想定は当たらないと思う (n=4478)	%	100.0	4.0	19.9	55.7	20.5
【調査1】 Q57項目 被害想定を出すことは、社会全体の地震対策につながると思う (n=4478)	%	100.0	21.6	48.7	20.7	9.0
【調査1】 Q57項目 被害想定は大袈裟すぎると思う (n=4478)	%	100.0	2.7	15.8	55.4	26.0
【調査1】 Q57項目 被害想定を出すことで住民の防災意識向上につながると思う (n=4478)	%	100.0	18.7	50.3	22.2	8.9
【調査1】 Q57項目 被害想定がどうやって作っているのかよくわからない (n=4478)	%	100.0	14.4	46.6	28.9	10.1
【調査1】 Q57項目 被害想定は信用できると思う (n=4478)	%	100.0	8.9	54.6	27.7	8.8
【調査1】 Q57項目 被害想定を出しても仕方がないと思う (n=4478)	%	100.0	4.3	23.2	47.9	24.6
【調査1】 Q57項目 地震がいつ来ても大丈夫なように備えているつもりである (n=4478)	%	100.0	5.9	37.6	43.5	12.9
【調査1】 Q57項目 被害想定は何のために作っているかわからない (n=4478)	%	100.0	3.1	18.0	49.9	29.1
【調査1】 Q57項目 地震はすぐには来ないと思うので、ゆくゆくは備えたいと思っている (n=4478)	%	100.0	3.9	31.7	45.0	19.4

(SA) 【調査1】 Q58. 以下の意見について、あなたのお考えに最も近いものをそれぞれについて、一つずつお答えください。

	全体	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
【調査1】 Q58項目 「天からの警告」というものは、ある (n=4478)	%	100.0	9.3	35.8	33.4	21.5
【調査1】 Q58項目 「自然災害」は、人間への、天からの警告である (n=4478)	%	100.0	8.8	33.7	34.4	23.1
【調査1】 Q58項目 人間は、みな「運命」「天命」がある (n=4478)	%	100.0	11.8	41.7	29.6	16.8
【調査1】 Q58項目 「自然災害」による被害を受けるか受けないかは運命である (n=4478)	%	100.0	9.3	38.9	33.5	18.2
【調査1】 Q58項目 今の世の中では、一人一人の人間はあまりにも無力である (n=4478)	%	100.0	21.2	43.6	25.4	9.8
【調査1】 Q58項目 大自然の力を前にしては、一人一人の人間はあまりにも無力である (n=4478)	%	100.0	32.4	41.6	17.8	8.2
【調査1】 Q58項目 大自然の力を前にしては、人類はあまりにも無力である (n=4478)	%	100.0	31.8	41.9	18.4	8.0
【調査1】 Q58項目 人間がどんなに対策をとっても「自然災害による被害」は防ぎようがない (n=4478)	%	100.0	21.3	43.2	25.8	9.6

(SA) 【調査1】 Q59. 2015年に東京都は『東京防災』という冊子を作りました。あなたはこの『東京防災』を知っていますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	読んだことがあり、中身も覚えている	11.1
2	読んだことがあるが、中身は覚えていない	33.1
3	知っているが、読んだことはない	25.7
4	知らない	30.1

(SA) 【調査1】 Q60. あなたはこれまでに大きな災害を経験したことはありますか。それぞれについて、一つずつお答えください。

		%	全体	避難したことがある	避難はしていないが、経験したことがある	経験したことはない
【調査1】 Q60項目	地震 (n=4478)	%	100.0	8.0	47.5	44.6
【調査1】 Q60項目	津波 (n=4478)	%	100.0	1.5	5.4	93.0
【調査1】 Q60項目	火山噴火 (n=4478)	%	100.0	1.2	5.1	93.7
【調査1】 Q60項目	水害 (n=4478)	%	100.0	2.6	10.3	87.1

(SA) 【調査1】 Q61. あなたは防災訓練に参加していますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	必ず参加している	3.8
2	たいてい参加している	12.5
3	たまに参加している	29.3
4	参加したことがない	54.4

(MA) 【調査1】 Q62. 現在、あなたご自身、もしくはご自宅に同居されている方の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	未就学児	8.9
2	後期高齢者 (75歳以上)	7.7
3	高齢者 (65～75歳未満)	14.1
4	要介護者	2.1
5	上記以外の家族や同居人	38.9
6	いない (一人暮らし)	36.4

(SA) 【調査1】 Q63. あなたのお住まいは次のうちどれにあたりますか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	集合住宅 (賃貸)	36.5
2	戸建て (賃貸)	4.3
3	公営住宅	2.5
4	集合住宅 (所有)	23.7
5	戸建て (所有)	32.6
6	その他	0.4

(SA) 【調査1】 Q64. あなたのお住まいは、建ててから何年経過しましたか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	20年未満	42.9
2	20年以上40年未満	35.4
3	40年以上70年未満	10.9
4	70年以上	0.3
5	わからない	10.4

(SA) 【調査1】 Q65. ご自宅の建物の造りについて教えてください。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	木造 (W造)	32.0
2	鉄筋コンクリート造 (RC造)	26.5
3	鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC造)	16.7
4	鉄骨造 (S造)	3.8
5	その他	0.2
6	わからない	20.8

(MA) 【調査2】 Q24. あなたは、首都直下地震に関する情報に接触しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	2019年12月にNHKで放送されたドラマ『パラレル東京』をみた	11.7
2	テレビで首都直下地震に関する情報を見た	36.7
3	新聞や雑誌で首都直下地震に関する情報を見た	9.8
4	インターネットで首都直下地震に関する情報を見た	19.2
5	地震動予測地図を見た	3.5
6	市区町村の避難所などが書かれている防災マップを見た	10.9
7	東京都の『震災時火災における避難場所や避難道路』を確認した	4.2
8	その他	0.1
9	上記の中であてはまるものはない	43.7

(FA) 【調査2】 Q24_8FA. あなたは、首都直下地震に関する情報に接触しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=5)		100.0
回答者数 (n=5)		100.0

(MA) 【調査2】 Q25. あなたは、首都直下地震が発生したときの下記のリスクについて、メディアで見聞きしたことはありますか。それぞれについて、あてはまるものをすべて選んでください。

		全体	テレビで見聞きしたことがある	インターネットで見聞きしたことがある	新聞で見たことがある	雑誌で見たことがある	ラジオで聞いたことがある	友人から聞いたことがある	映画やドラマで見聞きしたことがある	こうしたリスクを見聞きしたことがない
【調査2】 Q25項目	自分自身の電話がつかなくなる (n=4478)	100.0	62.2	23.6	7.4	2.4	3.3	4.0	5.8	20.0
【調査2】 Q25項目	自分自身のメールやLINE・Twitterが使えなくなる (n=4478)	100.0	54.1	23.1	6.8	2.8	3.1	3.3	4.5	26.3
【調査2】 Q25項目	自分自身が大規模な猛火炎に巻き込まれる (n=4478)	100.0	52.2	18.4	6.2	2.7	2.9	2.5	5.9	29.7
【調査2】 Q25項目	自分自身が建物やエレベーター内に閉じ込められる (n=4478)	100.0	62.0	29.8	7.0	3.4	3.2	2.3	7.5	18.8
【調査2】 Q25項目	自分自身がデマ・流言にまどわされる (n=4478)	100.0	54.6	23.0	6.0	2.7	3.6	2.8	5.9	25.1
【調査2】 Q25項目	自分自身が土砂災害に巻き込まれる (n=4478)	100.0	49.3	17.3	5.4	2.4	2.7	2.3	5.3	32.6
【調査2】 Q25項目	自分自身が群衆崩壊 (なだれ) や付随崩しに巻き込まれる (n=4478)	100.0	48.7	16.6	5.5	2.5	2.9	1.9	6.2	33.8
【調査2】 Q25項目	自分自身が工場や建物の爆発被害に巻き込まれる (n=4478)	100.0	45.6	15.8	5.2	2.3	2.5	1.9	5.9	37.6

(MA) 【調査2】 Q26. 屋内においてマグニチュード7程度の地震が起きたときに、あなたはどのような行動を取ると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=4229)		100.0
1	机の下に隠れる	40.8
2	その場で姿勢を低くする	33.2
3	頭を守る	51.7
4	火を消しに行く	27.9
5	家族を守りに行く	15.7
6	タンスや棚が倒れないように支える	16.1
7	ドアを開ける	42.7
8	周囲を見回す	17.5
9	落下したり、倒れてくるものがないか確認する	38.7
10	その他	0.9

(FA) 【調査2】 Q26_10FA. 屋内においてマグニチュード7程度の地震が起きたときに、あなたはどのような行動を取ると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=39)		100.0
回答者数 (n=39)		100.0

(MA) 【調査2】 Q27. 揺れがおさまったら、あなたは最初に、どのような行動を取ると思いますか。

		%
全体 (n=4188)		100.0
1	出口を確保しに行く	64.4
2	テレビをつけて震源地と震度を調べようとする	55.7
3	スマートフォンの通知を確認する	37.7
4	家族にメールで連絡する	25.0
5	家族に電話で連絡する	20.3
6	非常用持ち出し袋を背負い、外に出る	11.4
7	お隣の方に声をかけに行く	6.2
8	その他	1.1

(MA) 【調査2】 Q28. では、屋外においてマグニチュード7程度の地震が起きたときに、あなたはどのような行動を取ると思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=4160)		100.0
1	その場で姿勢を低くする	45.9
2	頭を守る	56.2
3	その場に止まる	37.6
4	周囲を見回す	34.1
5	落下したり、倒れてくるものがないか確認する	53.7
6	その他	0.7

(SA) 【調査2】 Q29. お住まいの地域で地震が発生した場合、ご自宅が住める状況でも、あなたは避難をしますと思いますが、下記のケースごとにお答えください。

		全体	必ず避難する と思う	たぶん避難する と思う	たぶん避難し ないと思う	必ず避難しな いと思う	
【調査2】 Q29項目	自宅に火災が迫っているとき (n=4478)	%	100.0	56.3	34.9	6.1	2.6
【調査2】 Q29項目	近くで火災が発生したことに気付いたとき (n=4478)	%	100.0	27.4	51.6	18.2	2.9
【調査2】 Q29項目	同じ市区で火災が多発していることがわかった場合 (n=4478)	%	100.0	15.2	37.8	40.7	6.3
【調査2】 Q29項目	自治体から火災に備えて避難指示が出ている場合 (n=4478)	%	100.0	27.8	48.7	19.3	4.1
【調査2】 Q29項目	家族が避難しようと言ったとき (n=4478)	%	100.0	33.8	52.6	10.5	3.1
【調査2】 Q29項目	自治会・近所の人から避難を呼びかけられたとき (n=4478)	%	100.0	32.1	53.4	11.4	3.1
【調査2】 Q29項目	消防職員・消防団・夜間職員などから避難を呼びかけられたとき (n=4478)	%	100.0	42.8	45.5	8.9	2.8
【調査2】 Q29項目	周囲の人たちが避難を始めたとき (n=4478)	%	100.0	35.0	51.4	10.8	2.8

(SA) 【調査2】 Q30. もし、地震が発生して被害にあわれて、家に住めなくなり、長期的に避難せざるを得なくなった場合、まず避難するとしたらあなたはどこに避難したいですか。

		%
全体 (n=4478)		100.0
1	近所の避難所	55.2
2	東京都内	21.8
3	東京都以外	23.0

(MA) 【調査2】 Q30a. その避難先は具体的に、どこですか。あてはまるものをすべて選んでください。

		%
全体 (n=1031)		100.0
1	祖父母、父母、子どもなどの家	51.4
2	親戚の家	16.4
3	知人・友人の家	6.5
4	受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設	12.5
5	ホテル・旅館	14.2
6	車中泊	4.7
7	その他	4.0
8	わからない	17.5

(SA) 【調査2】 Q30b1_1. 祖父母、父母、子どもなどの家

		%
全体 (n=530)		100.0
1	北海道	3.8
2	青森県	2.8
3	岩手県	1.7
4	宮城県	1.9
5	秋田県	1.7
6	山形県	1.1
7	福島県	3.0
8	茨城県	3.4
9	栃木県	2.6
10	群馬県	2.8
11	埼玉県	10.4
12	千葉県	8.1
13	東京都	3.2
14	神奈川県	6.4
15	新潟県	4.9
16	富山県	1.1
17	石川県	0.9
18	福井県	0.4
19	山梨県	0.6
20	長野県	4.3
21	岐阜県	0.8
22	静岡県	2.8
23	愛知県	2.6
24	三重県	1.1
25	滋賀県	0.4
26	京都府	1.9
27	大阪府	4.7
28	兵庫県	4.7
29	奈良県	1.1
30	和歌山県	0.8
31	鳥取県	0.9
32	島根県	0.4
33	岡山県	1.3
34	広島県	2.3
35	山口県	0.6
36	徳島県	0.2
37	香川県	0.9
38	愛媛県	0.8
39	高知県	0.2
40	福岡県	3.0
41	佐賀県	0.2
42	長崎県	0.6
43	熊本県	0.8
44	大分県	0.6
45	宮崎県	0.6
46	鹿児島県	0.2
47	沖縄県	0.0
48	わからない	0.4

(SA) 【調査2】 Q30b1_2. 親戚の家

		%
全体 (n=169)		100.0
1	北海道	2.4
2	青森県	1.2
3	岩手県	2.4
4	宮城県	3.0
5	秋田県	1.2
6	山形県	1.2
7	福島県	3.0
8	茨城県	4.7
9	栃木県	3.0
10	群馬県	3.0
11	埼玉県	7.7
12	千葉県	4.7
13	東京都	5.9
14	神奈川県	5.9
15	新潟県	4.1
16	富山県	1.8
17	石川県	3.0
18	福井県	1.2
19	山梨県	1.8
20	長野県	3.0
21	岐阜県	1.2
22	静岡県	1.2
23	愛知県	4.7
24	三重県	0.6
25	滋賀県	0.0
26	京都府	1.8
27	大阪府	5.9
28	兵庫県	3.6
29	奈良県	0.6
30	和歌山県	0.0
31	鳥取県	0.6
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.0
34	広島県	2.4
35	山口県	1.8
36	徳島県	1.2
37	香川県	0.6
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.6
40	福岡県	1.2
41	佐賀県	1.8
42	長崎県	1.8
43	熊本県	0.0
44	大分県	1.8
45	宮崎県	0.6
46	鹿児島県	1.2
47	沖縄県	0.0
48	わからない	1.2

(SA) 【調査2】 Q30bc1_3. 知人・友人の家

全体 (n=67)		%
1	北海道	7.5
2	青森県	0.0
3	岩手県	3.0
4	宮城県	4.5
5	秋田県	1.5
6	山形県	6.0
7	福島県	0.0
8	茨城県	3.0
9	栃木県	4.5
10	群馬県	0.0
11	埼玉県	4.5
12	千葉県	10.4
13	東京都	7.5
14	神奈川県	4.5
15	新潟県	4.5
16	富山県	3.0
17	石川県	3.0
18	福井県	1.5
19	山梨県	0.0
20	長野県	0.0
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.0
23	愛知県	7.5
24	三重県	1.5
25	滋賀県	0.0
26	京都府	1.5
27	大阪府	4.5
28	兵庫県	0.0
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	1.5
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	4.5
34	広島県	1.5
35	山口県	1.5
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	1.5
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	1.5
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	3.0
48	わからない	1.5

(SA) 【調査2】 Q30bc1_4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設

全体 (n=129)		%
1	北海道	3.9
2	青森県	3.1
3	岩手県	0.0
4	宮城県	0.8
5	秋田県	1.6
6	山形県	0.8
7	福島県	3.1
8	茨城県	3.1
9	栃木県	4.7
10	群馬県	4.7
11	埼玉県	3.9
12	千葉県	5.4
13	東京都	18.6
14	神奈川県	5.4
15	新潟県	0.8
16	富山県	0.0
17	石川県	1.6
18	福井県	0.0
19	山梨県	0.8
20	長野県	3.9
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.0
23	愛知県	1.6
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.0
27	大阪府	0.8
28	兵庫県	1.6
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.8
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.0
34	広島県	0.0
35	山口県	0.0
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	1.6
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.8
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	1.6
47	沖縄県	0.8
48	わからない	24.8

(SA) 【調査2】 Q30bc1_5. ホテル・旅館

全体 (n=146)		100.0
1	北海道	6.2
2	青森県	0.7
3	岩手県	0.7
4	宮城県	0.7
5	秋田県	2.1
6	山形県	2.1
7	福島県	2.1
8	茨城県	3.4
9	栃木県	3.4
10	群馬県	3.4
11	埼玉県	4.8
12	千葉県	8.2
13	東京都	12.3
14	神奈川県	2.7
15	新潟県	1.4
16	富山県	0.7
17	石川県	1.4
18	福井県	0.0
19	山梨県	2.1
20	長野県	4.8
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.0
23	愛知県	2.7
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.7
27	大阪府	5.5
28	兵庫県	2.1
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.7
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.0
34	広島県	0.0
35	山口県	0.0
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	2.1
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.7
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.7
47	沖縄県	1.4
48	わからない	20.5

(SA) 【調査2】 Q30bc1_7. その他

全体 (n=41)		100.0
1	北海道	4.9
2	青森県	0.0
3	岩手県	2.4
4	宮城県	0.0
5	秋田県	2.4
6	山形県	2.4
7	福島県	4.9
8	茨城県	4.9
9	栃木県	0.0
10	群馬県	2.4
11	埼玉県	0.0
12	千葉県	7.3
13	東京都	4.9
14	神奈川県	7.3
15	新潟県	7.3
16	富山県	0.0
17	石川県	0.0
18	福井県	0.0
19	山梨県	4.9
20	長野県	22.0
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	2.4
23	愛知県	2.4

(SA) 【調査2】 Q30bc1_6. 車中泊

全体 (n=48)		100.0
1	北海道	4.2
2	青森県	0.0
3	岩手県	0.0
4	宮城県	0.0
5	秋田県	2.1
6	山形県	0.0
7	福島県	4.2
8	茨城県	4.2
9	栃木県	6.3
10	群馬県	0.0
11	埼玉県	12.5
12	千葉県	4.2
13	東京都	16.7
14	神奈川県	2.1
15	新潟県	2.1
16	富山県	0.0
17	石川県	0.0
18	福井県	0.0
19	山梨県	2.1
20	長野県	8.3
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.0
23	愛知県	4.2
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.0
27	大阪府	2.1
28	兵庫県	2.1
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.0
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.0
34	広島県	0.0
35	山口県	0.0
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	0.0
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	0.0
48	わからない	22.9

24	三重県	2.4
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.0
27	大阪府	0.0
28	兵庫県	2.4
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.0
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	2.4
34	広島県	0.0
35	山口県	0.0
36	徳島県	4.9
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	2.4
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	2.4
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	0.0
48	わからない	0.0

(MA) 【調査2】 Q30c. そこまでの避難の手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=851)		%
1	自家用車	40.4
2	電車・新幹線	51.6
3	バス・タクシー	13.7
4	原付・バイク	1.4
5	自転車	5.8
6	徒歩	13.2
7	飛行機	14.8
8	その他	0.6
9	わからない	12.3

(MA) 【調査2】 Q30d. その後、都内に食料などの物資が入らなくなった場合、避難するとしたらあなたはどこに避難しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=3447)		%
1	祖父母、父母、子どもなどの家	28.0
2	親戚の家	14.8
3	知人・友人の家	7.5
4	受け入れを行っている遠方の自治体が設置する施設	29.9
5	ホテル・旅館	14.0
6	車中泊	6.8
7	その他	0.5
8	わからない	34.9

(SA) 【調査2】 Q30e01_1. 祖父母、父母、子どもなどの家

全体 (n=966)		%
1	北海道	2.2
2	青森県	1.1
3	岩手県	0.8
4	宮城県	1.1
5	秋田県	0.9
6	山形県	0.7
7	福島県	1.7
8	茨城県	3.0
9	栃木県	2.3
10	群馬県	1.9
11	埼玉県	8.0
12	千葉県	4.9
13	東京都	38.9
14	神奈川県	6.0
15	新潟県	1.7
16	富山県	0.4
17	石川県	1.1
18	福井県	0.5
19	山梨県	0.6
20	長野県	2.1
21	岐阜県	0.5
22	静岡県	2.1
23	愛知県	3.0
24	三重県	0.5
25	滋賀県	0.4
26	京都府	0.5
27	大阪府	2.6
28	兵庫県	2.0
29	奈良県	0.5
30	和歌山県	0.3
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.3
33	岡山県	0.6
34	広島県	0.9
35	山口県	0.6
36	徳島県	0.4
37	香川県	0.2
38	愛媛県	0.5
39	高知県	0.1
40	福岡県	1.2
41	佐賀県	0.1
42	長崎県	0.5
43	熊本県	0.2
44	大分県	0.4
45	宮崎県	0.5
46	鹿児島県	0.5
47	沖縄県	0.2
48	わからない	0.2

(SA) 【調査2】 Q30e01_2. 親戚の家

全体 (n=509)		%
1	北海道	2.4
2	青森県	1.2
3	岩手県	1.4
4	宮城県	3.3
5	秋田県	1.4
6	山形県	1.2
7	福島県	2.8
8	茨城県	5.1
9	栃木県	2.2
10	群馬県	2.6
11	埼玉県	9.2
12	千葉県	5.7
13	東京都	27.1
14	神奈川県	6.3
15	新潟県	1.6
16	富山県	0.6
17	石川県	0.8
18	福井県	0.4
19	山梨県	0.6
20	長野県	2.6
21	岐阜県	1.0
22	静岡県	2.8
23	愛知県	3.1
24	三重県	0.6
25	滋賀県	0.2
26	京都府	1.0
27	大阪府	3.3
28	兵庫県	1.8
29	奈良県	0.2
30	和歌山県	0.4
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.4
33	岡山県	0.8
34	広島県	0.6
35	山口県	0.2
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.2
38	愛媛県	0.2
39	高知県	0.6
40	福岡県	2.4
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.2
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.4
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.4
47	沖縄県	0.2
48	わからない	1.0

(SA) 【調査2】 Q30e01_3. 知人・友人の家

全体 (n=258)		%
1	北海道	3.1
2	青森県	0.0
3	岩手県	0.4
4	宮城県	1.9
5	秋田県	1.2
6	山形県	1.2
7	福島県	3.1
8	茨城県	1.6
9	栃木県	1.6
10	群馬県	0.8
11	埼玉県	7.8
12	千葉県	6.6
13	東京都	50.0
14	神奈川県	4.7
15	新潟県	1.2
16	富山県	0.8
17	石川県	0.0
18	福井県	0.0
19	山梨県	0.8
20	長野県	1.2
21	岐阜県	0.4
22	静岡県	0.4
23	愛知県	0.4
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.4
27	大阪府	1.6
28	兵庫県	0.8
29	奈良県	0.4
30	和歌山県	0.0
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.4
33	岡山県	0.4
34	広島県	0.8
35	山口県	0.8
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	0.8
41	佐賀県	0.4
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.4
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	0.0
48	わからない	4.3

(SA) 【調査2】 Q30e01_4. 受入れを行っている遠方の自治体が設置する施設

全体 (n=1029)		%
1	北海道	1.2
2	青森県	0.3
3	岩手県	0.3
4	宮城県	0.3
5	秋田県	0.4
6	山形県	0.4
7	福島県	0.6
8	茨城県	0.9
9	栃木県	0.9
10	群馬県	1.2
11	埼玉県	6.3
12	千葉県	3.6
13	東京都	50.0
14	神奈川県	1.7
15	新潟県	1.2
16	富山県	0.2
17	石川県	0.6
18	福井県	0.0
19	山梨県	0.6
20	長野県	1.6
21	岐阜県	0.1
22	静岡県	0.5
23	愛知県	0.4
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.3
27	大阪府	0.3
28	兵庫県	0.8
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.1
31	鳥取県	0.1
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.3
34	広島県	0.2
35	山口県	0.1
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.1
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.1
40	福岡県	0.9
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	0.2
48	わからない	23.6

(SA) 【調査2】 Q30e01_5. ホテル・旅館

全体 (n=481)		100.0
1	北海道	1.0
2	青森県	0.4
3	岩手県	0.2
4	宮城県	0.4
5	秋田県	0.4
6	山形県	0.0
7	福島県	1.9
8	茨城県	1.9
9	栃木県	1.0
10	群馬県	1.5
11	埼玉県	4.0
12	千葉県	1.9
13	東京都	51.6
14	神奈川県	4.8
15	新潟県	0.4
16	富山県	0.2
17	石川県	0.0
18	福井県	0.0
19	山梨県	1.0
20	長野県	2.1
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.4
23	愛知県	0.8
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.6
27	大阪府	0.6
28	兵庫県	0.6
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.2
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.2
34	広島県	0.2
35	山口県	0.2
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.2
38	愛媛県	0.2
39	高知県	0.0
40	福岡県	0.2
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.2
47	沖縄県	0.8
48	わからない	19.8

(SA) 【調査2】 Q30e01_7. その他

全体 (n=16)		100.0
1	北海道	6.3
2	青森県	0.0
3	岩手県	0.0
4	宮城県	0.0
5	秋田県	0.0
6	山形県	0.0
7	福島県	0.0
8	茨城県	0.0
9	栃木県	6.3
10	群馬県	0.0
11	埼玉県	0.0
12	千葉県	6.3
13	東京都	68.8
14	神奈川県	0.0
15	新潟県	0.0
16	富山県	0.0
17	石川県	0.0
18	福井県	0.0
19	山梨県	6.3
20	長野県	6.3
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.0
23	愛知県	0.0

(SA) 【調査2】 Q30e01_6. 車中泊

全体 (n=236)		100.0
1	北海道	0.0
2	青森県	0.0
3	岩手県	0.0
4	宮城県	0.4
5	秋田県	0.0
6	山形県	0.8
7	福島県	2.1
8	茨城県	1.7
9	栃木県	0.4
10	群馬県	1.7
11	埼玉県	4.7
12	千葉県	0.8
13	東京都	66.1
14	神奈川県	1.7
15	新潟県	1.3
16	富山県	0.0
17	石川県	0.8
18	福井県	0.0
19	山梨県	0.0
20	長野県	0.8
21	岐阜県	0.0
22	静岡県	0.0
23	愛知県	0.0
24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.0
27	大阪府	0.8
28	兵庫県	0.8
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.0
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.4
33	岡山県	0.0
34	広島県	0.0
35	山口県	0.0
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	0.0
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	0.0
48	わからない	14.4

24	三重県	0.0
25	滋賀県	0.0
26	京都府	0.0
27	大阪府	0.0
28	兵庫県	0.0
29	奈良県	0.0
30	和歌山県	0.0
31	鳥取県	0.0
32	島根県	0.0
33	岡山県	0.0
34	広島県	0.0
35	山口県	0.0
36	徳島県	0.0
37	香川県	0.0
38	愛媛県	0.0
39	高知県	0.0
40	福岡県	0.0
41	佐賀県	0.0
42	長崎県	0.0
43	熊本県	0.0
44	大分県	0.0
45	宮崎県	0.0
46	鹿児島県	0.0
47	沖縄県	0.0
48	わからない	0.0

(MA) 【調査2】 Q30f. そこまでの避難の手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=2244)		%
1	自家用車	39.6
2	電車・新幹線	38.5
3	バス・タクシー	13.4
4	原付・バイク	2.6
5	自転車	12.5
6	徒歩	40.1
7	飛行機	5.7
8	その他	0.1
9	わからない	10.8

(MA) 【調査2】 Q31. あなたはふだん、次のような地震対策を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=3525)		%
1	家具の転倒防止	52.7
2	パソコンやテレビなどの滑り止め	30.9
3	家具の配置の工夫	32.6
4	ガラスの飛散防止	11.1
5	消火器の準備	23.3
6	食器棚に掛け金をかけるなど、飛び出し防止	18.3
7	地震保険への加入	36.3

(MA) 【調査2】 Q32. 前問で選択したこと以外で、次のような地震対策を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=3668)		%
1	火災から逃れるための広域避難場所の確認	27.5
2	「広域避難場所」に集まる前に一時的に集まる「一時（いっとき）避難場所」の確認	20.1
3	避難生活を送るための避難所の確認	17.5
4	水の備蓄	56.6
5	食料の備蓄	53.3
6	非常用持ち出し袋の準備	30.6
7	懐中電灯の準備	51.9
8	乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備	40.7
9	ラジオの準備	28.0
10	カセットコンロの準備	31.4

(MA) 【調査2】 Q33. あなたが地震対策を行うようになったきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=3870)		%
1	実際に大きな地震を経験したこと	29.7
2	東日本大震災や熊本地震などの被災地の様子をテレビなどで見たこと	51.8
3	防災に関するテレビ番組を見たこと	29.1
4	防災に関する講演会などに参加したこと	4.4
5	学校の授業で習ったこと	5.7
6	家族に対策の必要性を言われたこと	7.2
7	知人や友人に対策の必要性を言われたこと	3.9
8	自治会などの訓練に参加したこと	2.7
9	その他	0.5
10	なんとなく気づけば行っていた	21.3

(SA) 【調査2】 Q33a. 食料の備蓄状況を普段から確認していますか。

全体 (n=1955)		%
1	月に一度くらい確認している	20.4
2	半年に一度くらい確認している	32.4
3	年に一度、防災の日に確認している	7.2
4	年に一度くらい確認している	20.3
5	数年に一度くらい確認している	6.8
6	確認していない	13.0

(SA) 【調査2】 Q34. あなたは同居する家族と、地震のときの安否確認方法は決めていますか。

全体 (n=4478)		%
1	決めている	25.2
2	決めていない	54.9
3	同居している家族はいない	19.9

(MA) 【調査2】 Q34a. どのように安否を確認しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体 (n=1130)		%
1	LINEやTwitterなどのソーシャルメディアを使う	53.8
2	Boole パソコンファンシナーや発達障害当事者が提供する災害用伝言サービスなどを使う	15.7
3	災害用伝言板Web1711を使う	22.0
4	災害用伝言ダイヤル1711を使う	30.8
5	公衆電話を使う	8.9
6	避難所など待ち合わせ場所を決めている	43.5
7	何とかして家に帰る	16.6
8	その他	0.5

(SA) 【調査2】 Q35. あなたは、以下の項目が地震対策として有効と思いますか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	有効だと思う	どちらかといえば有効だと思う	どちらかといえば有効ではないと思う	有効ではないと思う
【調査2】 Q35項目	家具の転倒防止 (n=4478)	%	100.0	54.0	37.7	5.6
【調査2】 Q35項目	パソコンやテレビなどの滑り止め (n=4478)	%	100.0	44.6	43.5	9.0
【調査2】 Q35項目	家具の配置の工夫 (n=4478)	%	100.0	45.9	42.4	8.9
【調査2】 Q35項目	ガラスの飛散防止 (n=4478)	%	100.0	45.9	43.2	8.0
【調査2】 Q35項目	消火器の準備 (n=4478)	%	100.0	43.3	43.4	10.0
【調査2】 Q35項目	食器棚に掛け金をかけるなど、飛び出し防止 (n=4478)	%	100.0	45.0	43.8	8.5
【調査2】 Q35項目	地震保険への加入 (n=4478)	%	100.0	38.7	44.3	12.6
【調査2】 Q35項目	火災から逃げるための広域避難場所の確認 (n=4478)	%	100.0	43.8	45.5	8.0
【調査2】 Q35項目	【広域避難場所】に最も近い一時的に集まる「一時（いっしょ）避難場所」の確認 (n=4478)	%	100.0	41.0	47.1	9.2
【調査2】 Q35項目	避難生活を送るための避難所の確認 (n=4478)	%	100.0	43.5	45.8	8.0
【調査2】 Q35項目	水の備蓄 (n=4478)	%	100.0	61.1	30.7	5.9
【調査2】 Q35項目	食料の備蓄 (n=4478)	%	100.0	60.5	31.0	6.3
【調査2】 Q35項目	非常用持ち出し袋の準備 (n=4478)	%	100.0	53.4	36.4	7.5
【調査2】 Q35項目	懐中電灯の準備 (n=4478)	%	100.0	58.8	32.4	6.2
【調査2】 Q35項目	乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備 (n=4478)	%	100.0	58.1	33.5	5.9
【調査2】 Q35項目	ラジオの準備 (n=4478)	%	100.0	49.8	38.6	8.7
【調査2】 Q35項目	カセットコンロの準備 (n=4478)	%	100.0	44.8	41.7	10.5

(SA) 【調査2】 Q36. あなたは、以下の項目を地震対策としてできると思いますか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	できると思う	どちらかといえばできると思う	どちらかといえばできないと思う	できないと思う
【調査2】 Q36項目	家具の転倒防止 (n=4478)	%	100.0	34.7	42.4	15.5
【調査2】 Q36項目	パソコンやテレビなどの滑り止め (n=4478)	%	100.0	33.4	43.1	16.3
【調査2】 Q36項目	家具の配置の工夫 (n=4478)	%	100.0	30.7	42.1	20.2
【調査2】 Q36項目	ガラスの飛散防止 (n=4478)	%	100.0	23.2	40.6	26.4
【調査2】 Q36項目	消火器の準備 (n=4478)	%	100.0	28.7	38.0	22.1
【調査2】 Q36項目	食器棚に掛け金をかけるなど、飛び出し防止 (n=4478)	%	100.0	26.2	41.7	22.5
【調査2】 Q36項目	地震保険への加入 (n=4478)	%	100.0	31.0	36.4	20.7
【調査2】 Q36項目	火災から逃げるための広域避難場所の確認 (n=4478)	%	100.0	35.5	44.1	14.3
【調査2】 Q36項目	【広域避難場所】に最も近い一時的に集まる「一時（いっしょ）避難場所」の確認 (n=4478)	%	100.0	34.3	44.4	15.2
【調査2】 Q36項目	避難生活を送るための避難所の確認 (n=4478)	%	100.0	36.1	43.4	14.3
【調査2】 Q36項目	水の備蓄 (n=4478)	%	100.0	45.9	37.6	11.6
【調査2】 Q36項目	食料の備蓄 (n=4478)	%	100.0	44.8	38.1	12.3
【調査2】 Q36項目	非常用持ち出し袋の準備 (n=4478)	%	100.0	39.3	39.9	14.3
【調査2】 Q36項目	懐中電灯の準備 (n=4478)	%	100.0	47.7	37.0	10.8
【調査2】 Q36項目	乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備 (n=4478)	%	100.0	44.7	38.5	12.2
【調査2】 Q36項目	ラジオの準備 (n=4478)	%	100.0	39.4	38.0	15.1
【調査2】 Q36項目	カセットコンロの準備 (n=4478)	%	100.0	35.8	38.7	17.1

(SA) 【調査2】 Q37. あなたは、以下の項目が地震対策として面倒だと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものをそれぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	面倒だと思う	どちらかといえば面倒だと思う	どちらかといえば面倒ではないと思う	面倒ではないと思う
【調査2】 Q37項目	家具の転倒防止 (n=4478)	%	100.0	19.3	45.4	13.2
【調査2】 Q37項目	パソコンやテレビなどの滑り止め (n=4478)	%	100.0	17.5	43.5	13.0
【調査2】 Q37項目	家具の配置の工夫 (n=4478)	%	100.0	20.9	43.0	13.2
【調査2】 Q37項目	ガラスの飛散防止 (n=4478)	%	100.0	25.9	46.6	9.0
【調査2】 Q37項目	消火器の準備 (n=4478)	%	100.0	20.4	39.8	15.1
【調査2】 Q37項目	食器棚に掛け金をかけるなど、飛び出し防止 (n=4478)	%	100.0	20.6	45.8	11.4
【調査2】 Q37項目	地震保険への加入 (n=4478)	%	100.0	20.8	38.3	17.3
【調査2】 Q37項目	火災から逃れるための広域避難場所の確認 (n=4478)	%	100.0	12.3	35.2	19.6
【調査2】 Q37項目	「広域避難場所」に集まる前に一時的に集まる「一時（いっとき）避難場所」の確認 (n=4478)	%	100.0	12.0	35.0	19.2
調査2】 Q37項目	避難生活を送るための避難所の確認 (n=4478)	%	100.0	12.1	34.7	19.8
調査2】 Q37項目	水の備蓄 (n=4478)	%	100.0	12.1	32.7	23.4
調査2】 Q37項目	食料の備蓄 (n=4478)	%	100.0	12.3	33.7	22.5
調査2】 Q37項目	非常用持ち出し袋の準備 (n=4478)	%	100.0	14.1	37.6	19.2
調査2】 Q37項目	懐中電灯の準備 (n=4478)	%	100.0	10.5	29.5	26.2
調査2】 Q37項目	乾電池や充電器、モバイルバッテリー等の準備 (n=4478)	%	100.0	10.4	31.3	24.6
調査2】 Q37項目	ラジオの準備 (n=4478)	%	100.0	12.2	33.7	22.4
調査2】 Q37項目	カセットコンロの準備 (n=4478)	%	100.0	14.0	37.3	19.9